

CZ  
3  
02

田中 信顯 編纂

本朝  
民鑑  
式版

第三篇

千鍾房藏版

本朝民鑑第二版

第三編目錄

第壹章 海上衝突豫防規則

第一條

(長崎縣) 百石以下ノ回漕船舷燈ノ儀ニ付伺

第二條

(箱館裁判所) 海上衝突豫防規則第七條第二十條違犯罰則ノ儀ニ付伺

第三條

(大坂府) 舷燈販賣ノ儀ニ付伺

第四條

(兵庫縣) 舷燈販賣ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引海上衝突豫防規則ノ部

第二章 航海公証規則

第五條

(東京府) 秋元長平渡島ノ儀ニ付伺

第三章

第六條

(新潟縣) 機關手減員使役之儀ニ付伺

第四章

第七條

(宮崎縣) 空船入港ノ節入港免狀下渡スヘキヤ否伺

第八條

(秋田縣) 國內回漕規則停止ニ付テハ不開港場ノ儀

第九條

(度會縣) 外國軍艦不開港場ニ駐錨ノ節屬員犯罪處

第十條

(山口縣) 外國船氷先人上陸取扱手續ノ儀ニ付伺

第十一條

(兵庫縣) 石炭油貯藏取扱ノ儀ニ付伺

第十二條

(酒田縣) 出帆免狀取扱ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引航海公証規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引西洋形商船船長運轉手機關手試驗規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引開港場出入規則ノ部

第五章 國內回漕規則

第十三條

(茨城縣)

船免狀ノ儀ニ付伺

第十四條

(東京府)

出帆稅表ノ儀ニ付伺

第十五條

(長崎縣)

出入稅上納表離形ノ儀ニ付伺

第十六條

(大坂府)

難風ニ遭ヒ破損セシ船ト雖モ修復ノ上再

第十七條

積荷出帆スル者碇泊稅ノ儀伺

第十八條

(宮崎縣)

空船出帆ノ節届ノ儀伺

第十九條

(岐阜縣)

免狀手数料ノ儀ニ付伺

第二十條

(新治縣)

湖川運用ノ船五十石以上ノ分碇泊稅取

第二十一條

立ヘキヤ否ノ儀伺

第二十二條

(高知縣)

物品表記載方ノ儀伺

第二十三條

(東京府)

三菱商社ヨリ伺出ノ儀ニ付伺

第二十四條

(愛知縣)

碇泊稅取立ノ節端石刻捨ノ儀ニ付伺

第二十五條

本朝民鑑第二版ノ三索引國內回漕規則ノ部

(千葉縣)

廻漕等規則施行ニ付右ニ屬スル入費等ノ儀ニ付伺

第廿四條

(小倉縣)

商船船底ヲ焚ク爲入湊セシモノ碇泊税ノ儀ニ付伺

第廿五條

(千葉縣)

碇泊税取扱人旅費ノ儀伺

第廿六條

(堺縣)

廻漕規則第十七條追加ノ儀ニ付伺

第廿七條

(濱田縣)

輸入物品届書其外諸届書式ノ中仕出場ノ儀ニ付伺

第廿八條

(鹿兒島縣)

五十石未満ノ小船并湖川運用船ハ積荷目錄等差出サスルニ不及又物品表等ニモ記載ニ不及ヤ否ノ儀并ニ船免狀ノ儀ニ付伺

第廿九條

(度會縣)

食料等請求ノ爲メ寄港スルモノ入港税取立ノ儀并積荷石數計算ノ儀ニ付伺

第卅條

(三重縣)

石數計算ノ儀ニ付疑件ノ廉伺

第卅一條

(和歌山縣)

回漕規則取扱振伺

第卅二條

本朝民鑑第二版ノ三索引國內回漕規則ノ部

(青森縣) 回漕規則違犯ノ者ハ港掛戸長ニ於テ處斷  
シ可然哉ノ否伺

第卅三條

(大坂裁判所) 同規則犯則者科料金ノ儀ニ付伺

第卅四條

(濱田縣) 船鑑札貸借航海スル者ハ無鑑札者同様處  
分可然哉否伺

第卅五條

(濱田縣) 着港届ヲ問屋ニ托シタルニ問屋ニ於テ進  
達ヲ等閑ニシ時間ヲ過ルル處分ノ儀ニ付伺

第卅六條

(大坂府) 回漕規則停止ニ付心得方伺

第卅七條

(小倉縣) 同規則停止中船政所廢止ノ儀伺

第卅八條

(宮城縣) 同規則停止中税關之儀ハ其儘相置可然哉  
否伺

第卅九條

(石川縣) 暴風ノ爲一時最寄ノ港へ入津スル者心得  
方ノ儀伺

第四十條

(宮崎縣) 船政所取締人給料并官等ノ儀伺

第四十一條

(廣島縣) 筑摩艦乗組砲夫逃亡自首ニヨリ引送ノ儀

同

第六章

北海道產物出港稅則并各港船政所規則

第四十二條

(箱館裁判所)

積荷目錄外積載スル者處罰ノ儀伺

第四十三條

(箱館裁判所)

諸港取締規則犯則ノ者ハ船政所ニ於直ニ處分可然哉否ノ儀伺

第四十四條

(新潟縣)

出帆免狀申受尙ホ都合ニヨリ物品積入レ出港自首スル者處分ノ儀伺

第七章

船稅規則

第四十五條

(兵庫縣)

港内舢及ヒ客船取締ノ儀伺

第四十六條

(度會縣)

船鑑札誤毀スル者處罰方ノ儀伺

第四十七條

(神奈川縣)

西洋形船噸數改方ノ儀ニ付伺

第四十八條

(東京府)

同上ノ儀伺

第八章

車稅規則

第四十九條

本朝民鑑第二版ノ三索引北海道產物出港稅則并各港船政所規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引船稅規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引車稅規則ノ部

(愛知縣) 馬車人力車稅規則ニ照シ正稅ノ外賦金取立ノ儀ニ付伺

第五十條

(度會縣) 諸車無屆營業ノ者脫稅高取立方ノ儀伺

第五十一條

(度會縣) 諸車鑑札遺失ノ節處分方伺

第五十二條

(警視廳) 皇族自用無檢印ノ車ニ借乘スルモノ處分ノ儀伺

第五十三條

(熊谷縣) 耕作ニ用フル免稅ノ車ヲ無屆ニテ用ユル者處罰ノ儀伺

第五十四條

(飾磨縣) 煙草印紙ニ式ノ如ク押印セサル者處罰方其他罰則ノ儀伺

第九章 煙草稅則

第五十五條

(三重縣) 煙艸營業鑑札ヲ遺失誤毀スル者處分ノ儀伺

第五十六條

(和歌山縣) 煙草出賣鑑札渡方ノ儀ニ付伺

第十章 証券印稅規則

第五十七條

(愛知縣) 建家其外讓渡ノ節タリトモ多少代價取極

本朝民鑑第二版ノ三索引車稅規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引煙草稅規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引證券印稅規則ノ部



アル分ハ第二類印紙貼用可致哉又借用金返金延期ヲ約スルモノモ同様心得可然哉ノ儀伺

第五十八條

(茨城裁判所)

証券印稅規則改正第五則第十二條中之儀ニ付伺

第五十九條

(茨城裁判所)

印紙ヲ貼用スヘキ證書ニ界紙ヲ用ヒタル節ハ印紙不足者ノ例ニ照シ可然哉否伺

第六十條

(三瀨縣)

印紙貼用不足ノ證書受取人處罰ノ儀伺

第六十一條

(若松縣)

規則第五則第十二條ノ儀伺

第六十二條

(新川縣)

人民相互ノ委任狀用紙ノ儀伺

第六十三條

(石川縣)

印紙不足ノ者ヲ脱稅ノ者ト誤認シ所斷セシ儀ニ付伺

第六十四條

(大坂裁判所)

印紙規則ニ觸タル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カントスルキハ受取人ニ於テ相當印紙貼用ヲ請ハシタルハ九月一日以後ノ證書ノニ候哉否伺

第六十五條

本朝民鑑第二版ノ三索引證券印稅規則ノ部

(白川縣) 數名連印ノ證書ニ「印紙界紙ヲ用ヒサル者  
過料金取立方并ニ諸品ヲ賣買スルニ現品  
ヲ授受セスシテ別ニ引渡ノ期限ヲ立ル者  
印紙貼用ノ儀其他犯則者過料ノ儀ニ付伺

第六十六條

(新川縣) 諸帳簿ニ最初見積金高ヨリ過剩ノ高ヲ附  
込タル處分ノ儀伺

第六十七條

(敦賀縣) 一旦消印セシ証券印紙再行用ノ者處分之儀  
ニ付伺

第六十八條

(愛知縣) 帳簿ニ過剩ノ金高ヲ附込タル者自首スル

者處分之儀ニ付伺

第六十九條

(大坂裁判所) 印紙不貼用ノ証券ヲ追テ貼用ノ上出訴ス  
ル者處分ノ儀伺

第七十條

(山形縣) 商用ニ關スル諸証券ハ商用印ヲ以テ消印  
致シ可然哉否伺

第七十一條

(司法省) 規則第五則中追加ノ儀伺

第七十二條

(新治裁判所) 印紙ノ消印實印ト相違スル者處罰ノ儀伺

第七十三條

本朝民鑑第二版ノ三索引證券印稅規則ノ部

(滋賀縣) 帳簿犯則ノ儀ニ付伺

第七十四條

(司法省) 印税規則増補ノ儀伺

第七十五條

(名東縣) 帳簿ヲ以テ貸金ノ証書ト爲スモノ處分方

第七十六條

(筑摩縣) 規則改正前ノ帳簿へ第二類ニ屬スル金員

第七十七條

(白川縣) 印紙不足ノ証書受取主處罰ノ儀ニ付伺

第七十八條

(東京裁判所) 印紙貼用スヘキヲ界紙ヲ用ヒタル者ノ儀

第七十九條

(石川縣) 宛名ナキ証書ヲ以テ出訴ノ儀ニ付伺

第八十條

(山口縣) 無印紙ノ証書へ証人ニ立タル者處罰ノ儀

第八十一條

(和歌山縣) 消印シテ未タ債主へ渡サ、ル印紙ヲ再用

第八十二條

(山形縣) 金高十圓未滿ノ証書へ界紙ヲ用ヒサル者

第八十三條

處罰方伺

(高知縣)

印紙貼用ヲ訴出タルモノ處分ノ儀ニ付伺

第八十四條

(水澤縣)

印紙不足又ハ無印紙ノ證書ニ立合人或ハ口入ト相成リ連署ノ者處罰方伺

第八十五條

(京都裁判所)

預證書用紙ノ儀ニ付伺

第八十六條

(愛知縣)

改正以前ニ受取證書ニ印紙貼用ナキ片ハ受取主ニ於テ貼用出訴相成可ク哉否伺

第八十七條

(三瀨縣)

規則第十三條ノ儀ニ付伺

第八十八條

(度會縣)

帳簿犯則ノ儀ニ付伺

第八十九條

(小倉縣)

金高區別ナキ連名ノ借用證ニ印紙不足ナル片ハ其減稅高ハ連名ニ割合差出サセ可然哉否伺

第九十條

(三瀨縣)

代言人ニテ印紙貼用ナキ證書ハ自己調印セシ者本人處罰ノ有無伺

第九十一條

(福岡縣)

公債證書等ヲ讓與之節讓與證書ノ儀ニ付

第九十三條

(水澤縣)

賣品并職業ニ關スル金錢受取印紙貼用ノ儀ニ付伺

第九十三條

(滋賀縣)

不相當ノ印紙貼用ノ証書ヲ以テ訴出ル者斷獄課差廻手續其他預米證書等ノ儀ニ付伺

第九十四條

(司法省)

帳簿犯則ノ儀ニ付伺

第九十五條

(大坂裁判所)

借用証文讓渡證書ノ儀ニ付伺

第九十六條

(愛媛縣)

印紙再用者處罰ノ儀伺

第九十七條

(司法省)

六年六月一日以後無印紙ニテ取引ノ分ト雖旧證書受取主印紙貼用裁判ヲ乞フ者ハ採上裁判可及ヤ否伺

第九十八條

(新潟縣)

印紙不足證書等受取タル者ハ都テ揭示後取引ノ分ニ限リ處罰可及哉否伺

第九十九條

(名東縣)

証券印稅規則犯則者處罰ノ儀伺

第一百條

(名東縣)

証券印稅規則ノ部

(小田縣) 米并雜石賣買証文ノ儀伺

第一百一條 賣買約定書ノ儀伺

第一百二條 預金証書ノ儀ニ付伺

(山形縣) 預金証書ノ儀ニ付伺

第一百三條 證印帳簿遺失ノ節處分ノ儀伺

(神奈川縣) 證印帳簿遺失ノ節處分ノ儀伺

第一百四條 証券ヲ代償流用スル節讓渡証書ノ儀ニ付伺

(白川縣) 証券ヲ代償流用スル節讓渡証書ノ儀ニ付伺

第一百五條 證印帳簿借受使用ノ者處罰ノ儀伺

(飾磨縣) 證印帳簿借受使用ノ者處罰ノ儀伺

第一百六條 不足ノ印紙貼用ノ證書ハ受取主ニテ相當印紙貼用公裁ヲ仰キ候節ハ取上裁判可及哉否伺

(島根縣) 不足ノ印紙貼用ノ證書ハ受取主ニテ相當印紙貼用公裁ヲ仰キ候節ハ取上裁判可及哉否伺

第一百七條 委任狀用紙ノ儀ニ付伺

(青森縣) 委任狀用紙ノ儀ニ付伺

第一百八條 目安糺ノ節不受理願下等取扱方ノ儀ニ付伺

(滋賀縣) 目安糺ノ節不受理願下等取扱方ノ儀ニ付伺

第一百九條 証券印紙ヲ始メ諸罰則等父子兄弟共犯ノ節處分ノ儀伺

(飾磨縣) 証券印紙ヲ始メ諸罰則等父子兄弟共犯ノ節處分ノ儀伺

第一百十條

(敦賀縣) 見積金高過利ノ帳簿ニ調印スル者處分方

伺

第一百十一條

(靜岡縣) 借地借家証文ニ印紙貼用ノ儀ニ付伺

第一百十二條

(敦賀縣) 証券讓渡證書ニ印紙ヲ用ヒサル者處罰ノ

儀伺

第一百十三條

(三重縣) 諸罰則犯違ノ者ハ其時存在ノ規則ニ照シ

可然哉否伺

第一百十四條

(鹿兒島縣)

証券讓渡證書ノ儀ニ付白川縣愛知縣等ハ御指令ニ依リ疑儀伺

第一百十五條

(岡山縣) 証券界紙ニ大概ノ証券文印刷ノ儀ニ付伺

第一百十六條

(京都裁判所)

明治七年太政官第七十五號御達ノ儀ニ付伺

第一百十七條

(三重縣) 証券界紙ノ界端ヲ切斷貼補セシモノ處罰

儀伺

第一百十八條

(石川縣) 酒油等借用又ハ預證書ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版三ノ索引証券印稅規則ノ部

第一百十九條 (東京上等裁判所) 借用金証券印紙調印犯則ノ儀中尾七等判事ヨリ告發ノ儀ニ付伺

第一百二十條 (大分縣) 帳簿罰則ノ儀ニ付伺

第一百二十一條 (熊谷裁判所) 再用印紙ノ情ヲ知テ受取マシテ者處罰ノ儀

第一百二十二條 (滋賀縣) 通帳簿ノ儀ニ付伺

第一百二十三條 (熊谷裁判所) 印稅規則ニ違ヒシ證書ヲ以テ訴出ル者ハ

一旦却下スル事ヤ否伺

第一百二十四條 (熊谷裁判所) 同上ノ儀再伺

第一百二十五條 (金澤裁判所) 原被告對審ノ後ト雖モ印稅規則違犯ノ廉發

覺スレハ裁判ニ不及可然哉否伺

第一百二十六條 (大分縣) 九年十一月十五日附ノ指令取消之件

第一百二十七條 (金澤裁判所) 審理中印稅犯則發覺ノ者ハ裁判不及可然

第一百二十八條 裁ノ儀伺

本朝民鑑第二版ノ三索引証券印稅規則ノ部



(水澤縣) 印稅犯則ノ廉二罪共ニ發スルキ處分ノ儀伺

第二百二十九條

(水澤縣) 印稅規則第九條第一二三項ノ儀并盜贓追

還ノ儀等伺

第三百卅條

(佐賀縣) 無印紙証書ヲ以出訴ノ儀ニ付伺

第三百卅一條

(水澤縣) 第三百三號布告ニ依テ伺書返却ノ儀ニ付伺

第十一章 酒類稅則

第三百卅二條

(小倉縣) 白木原龜壽作清酒過造ノ儀ニ付伺

第三百卅三條

(千葉縣)

釀造鑑札貸借ノ者鑑札并釀造品并ニ器械  
共取上可然哉否伺

第三百卅四條

(司法省)

酒造取締規則追加ノ條改正ノ儀伺

第三百卅五條

(白川縣)

釀造ノ上改ヲ受ケス私擅ニ賣出セシ者處  
罰ノ儀

第三百卅六條

(山形縣)

酒類ヲ釀造シ自家ノ用ニ供スル者ノ儀伺

第三百卅七條

(東京裁判所)

釀造鑑札毀失ノ儀伺

本朝民鑑第二版ノ三索引証券印稅規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引酒類稅則ノ部

第百卅八條

(滋賀縣)

酒類過造ノ者罰金計算方ハ白米高ヲ以テ  
スヘキヤ否ノ儀伺

第百卅九條

(節磨縣)

密造酒類賣捌ノ者處分方ノ儀伺

第百四十條

(鳥取縣)

醸造高検査前自用ニ供スル者處分ノ儀伺

第百四十一條

(敦賀縣)

酒類隱造ノ者處罰方伺

第百四十二條

(同縣)

酒類犯則ノ者等ヲ誤テ常律ヲ以テ贖罪ニ  
處スル節貼斷ノ儀ニ付伺

第百四十三條

(宮城縣)

無届増醸ノ儀ニ付伺

第百四十四條

(熊本縣)

酒類規則違犯者ヲ見認訴出ル者賞與ノ儀  
伺

第十二章 貢米納方規則

第百四十五條

(節磨縣)

貢米回漕ノ途中重荷ニテ航海シ難キニヨ  
リ舩へ積移出航セシニ付右入費受取度旨  
出願ニ付伺

第百四十六條

本朝民鑑第二版ノ三索引酒類稅則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引貢米納方規則ノ部

(三重縣) 正木嘉兵衛二并覺左衛門賞與ノ儀ニ付伺  
第四百十七條

(青森縣) 地租ノ儀ニ付伺

第四百十八條

(愛知縣) 舊重原藩士族屋敷貢租ノ儀ニ付伺

第四百十九條

(福島縣) 貢租並作德米下渡ノ儀ニ付伺

第十三章 地租徵收期限

第四百五十條

(茨城裁判所) 貢納金ヲ官廳へ完納前監守中盜ニ取ラレ  
追徴スル能ハサルモノ處分ノ儀伺

第四百五十一條

(司法省) 地租怠納金ノ儀ニ付伺

第四百五十二條

(和歌山縣) 租税不納ノ者身代限ノ儀ハ訴訟手續ヲ履  
行スルヤ否伺

第四百五十三條

(東京府) 同上ノ儀伺

第四百五十四條

(島根縣) 區入費取立ヲ訴ルハ租税未納ヲ訴出ルト  
同様訴訟野紙ヲ用ヒザル哉否伺

第四百五十五條

(東京府) 租税怠納ヲ訴出ル節訴訟野紙ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引貢米納方規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引地租徵收期限ノ部

第五百五十六條

(山梨縣) 地租徵收ノ儀ニ付伺

第五百五十七條

(椽木縣) 十年七十九號布告中民費ノ儀ニ付伺

第五百五十八條

(福島縣) 同布告第三條但書之儀ニ付伺

第十四章 利足制限法

第五百五十九條

(愛知縣) 一个月金若干ト定約有之利足償却方ノ儀

ニ付伺

第六百六十條

(三重縣) 鈴木甚兵衛外三人出訴ノ儀ニ付伺

第六百六十一條

(福岡縣) 年號略記之預金証文ノ儀ニ付伺

第六百六十二條

(濱田縣) 利息ノ約ヲ定メス又ハ月別一割等之高利

ヲ認メ置習慣ノ儀ニ付伺

第六百六十三條

(島根縣) 身代限ノ節利足計算方ノ儀ニ付伺

第六百六十四條

(島根縣) 利息制限法ノ儀ハ既往ニ及ホスヤ否又金

員區別中滿百圓ハ孰レハ屬スルヤノ儀伺

第六百六十五條

本朝民鑑第二版ノ三索引地租徵收期限ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引利足制限法ノ部

(青森縣) 同上ノ儀伺

第六十六條

(群馬縣) 利息制限法ノ儀ハ人民豫知ノ日ヨリ施行

スヘキ哉否伺

第六十七條

(山形縣) 利息制限法ハ既往ニ及ホスヤ否伺

第六十八條

(神奈川縣) 制定ノ利子ニ起過スルモノハ更ニ改正セ

シムルヤ否伺

第六十九條

(青森縣) 利息制限法施行ニ付質物營業ノ儀ニ付伺

第七十條

(岡山縣) 利息制限法ハ既往ニ及ホスヤ否伺

第七十一條

(兵庫縣) 戶長與印ノ儀ハ利足ノ當不當ニ不關ヤ否

伺

第七十二條

(横濱裁判所) 利息制限法ハ既往ニ及ホサ、ル哉否伺

第七十三條

(長崎裁判所) 米穀貸借利足ノ儀ニ付伺

第七十四條

(高知縣) 制限法ニ違フモノ違命ノ輕重ニ問フヘキ

否伺

第七十五條

本朝民鑑第二版ノ三索引利足制限法ノ部

(山梨縣) 制限法ハ金銭貸借ニ限ル哉否伺

第七十六條

(福岡縣) 米穀貸借ハ制限法ニ依ラサル哉否ノ儀其

他細目伺

第七十七條

(廣島縣) 制限法中細目伺

第七十八條

(堺縣) 質物ハ制限法ニ依ラサル哉否伺

第十五章 印章

第七十九條

(三重縣) 官印彫刻ノ儀ニ付伺

第八十條

(同縣) 兼官アル者官印彫刻方ノ儀并判任官印章

ノ儀伺

第八十一條

(濱田縣) 質印ノ儀ハ滿十五年以上ノ者ハ男女ニ限

第八十二條) ラス彫刻スヘキ哉否伺

(島根縣) 判任官印章ノ儀伺

第八十三條

(堺縣) 後見人ハ質印委托ノ儀伺

第八十四條

(和歌山縣) 金銭貸借證書ハ店印押捺ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引利息制限法ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引印章ノ部

第百八十五條

(石川縣) 金錢借用證文ノ名下ニ捺印ヲ用フルノ儀ニ付伺

第百八十六條

(埼玉裁判所) 區裁判所ニ於テ廳印彫刻ノ儀ニ付伺

第百八十七條

(新潟縣) 借用證書ニ商用印ヲ用フルノ儀ニ付伺

第百八十八條

(百川縣) 縣印大小區別并用方ノ儀ニ付伺

第百八十九條

(濱田縣) 詐偽律私印偽造ノ者處分ノ儀ニ付伺

第百九十條

(濱田縣) 人民實印ノ儀公布ニ背キ候者處分ノ儀ニ付伺

第百九十一條

(水澤縣) 無印証文處分ノ儀ニ付伺

第百九十二條

(敦賀縣) 實印ヲ竊盜スル者處分ノ儀ニ付伺

第百九十三條

(小田縣) 實印ヲ他人ニ預ケタル者處分ノ儀ニ付伺

第百九十四條

(山形縣) 實印ヲ他人ニ貸渡シ候儀ニ付伺

第百九十五條

(埼玉裁判所) 借用証文ノ名下及ヒ印紙共實印ヲ押サス

摺印ヲナス者處分ノ儀ニ付伺

第九十六條

(和歌山縣) 私ノ印ヲ盜ム者處分ノ儀ニ付伺

第九十七條

(三重縣) 商法上ノ証書名下ニ商用印ヲ用ヒ其印ヲ

以テ印紙ニ調印スル者處分ノ儀ニ付伺

第九十八條

(大分縣) 戶長役場ニ己ノ實印ヲ他人ニ爲持代押

セシムル者ノ儀ニ付伺

第九十九條

(福岡縣) 實印ヲ預ケ預ル者處分ノ儀ニ付伺

第二百條

(長崎裁判所) 各裁判所長官印刷彫刻ノ儀ニ付伺

第二百一條

(長崎上等裁判所檢事連署檢印ノ儀ニ付伺

第二百二條

(滋賀縣) 上申書等ニ長官調印ノ儀ニ付伺

第二百三條

(滋賀縣) 罪案掛官吏罪案名下ニ調印ノ儀ニ付伺

第二百四條

(大坂裁判所) 各裁判所署長官印調製ニ付寸法ノ儀伺

第二百五條

(東京裁判所) 支廳長官印調製ノ儀ニ付伺

第二百六條



(熊本縣) 私信証書へ官印ヲ用ユル儀ニ付伺

第二百七條

(鳥取縣) 寺印證書身代限之節糶賣ノ儀ニ付伺

第二百八條

(司法省) 華士族貸借證書ニ役所印ヲ用ユル儀ニ付伺

第二百九條

(愛知縣) 寺院身代限抵償品類ノ儀伺

第二百十條

(鳥取裁判所) 寺號ヲ記シ寺印ヲ捺セシ預金之儀ニ付伺

第二百十一條

(和歌山縣) 實印ヲ他人ニ預ケシ者處分之儀伺

第二百十二條

(山梨裁判所) 官ノ印ヲ故ニ棄毀スル者處分之儀伺

第二百十三條

(大坂裁判所) 爪印花押等之證書ヲ以テ訴出之者受理之

儀ニ付伺

第二百十四條

(新潟縣) 十年第五十號布告ノ手續ヲ踐マサル証書

効力有無之儀ニ付伺

第二百十五條

(岡山縣) 同上之儀伺

第二百十六條

(高知縣) 十年第四十四號公布之儀ニ付伺

第二百十七條

(愛知縣) 證券界紙書損之廉改削ノ儀ニ付伺

第二百十八條

(秋田縣) 幼主實印ノ儀ニ付伺

第二百十九條

(青森縣) 楠美晚翠伺出之件ニ付伺

第二百二十條

(東京裁判所) 實印貸借之者處分之儀伺

第二百二十一條

(京都裁判所) 私印偽造之儀ニ付伺

第二百二十二條

(水戸裁判所) 印形偽造之儀ニ付伺

第二百二十三條

(和歌山縣) 無印離別狀之儀ニ付伺

第二百廿四條

(新潟縣) 第五十號布告ノ手續ヲ履マサル證書効力

有無之儀ニ付伺

第十六章 官令揭示心得

第二百廿五條

(神奈川縣) 行倒及縊死溺死等揭示日數之儀ニ付伺

第二百廿六條

(岐阜縣) 各村市高札之儀ニ付伺

第二百廿七條

(埼玉縣) 各村里程元標之儀ニ付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引印章ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引官令揭示心得ノ部

第二百廿八條

(東京裁判所) 揭示條款ニ背キ判金ヲ兌換スル者處分ノ儀ニ付伺

第二百廿九條

(東京裁判所) 揭示條款第七條之儀ニ付伺

第二百三十條

(警視廳) 廳内遺失物揭示之儀ニ付伺

第二百卅一條

(大坂裁判所) 身代限揭示之儀ニ付伺

第二百卅二條

(神奈川縣) 布告達到達日數之儀ニ付伺

第二百卅三條

(愛媛縣) 諸稅不納ヨリ身代限ニ至ル者揭示之儀ニ付伺

第二百三十四條

(廣島縣) 渡船場制札建設入費之儀ニ付伺

第二百卅五條

(和歌山縣) 揭示場保管入費之儀ニ付伺

第二百卅六條

(神奈川縣) 太政官達之儀ハ人民ニ於テ援引不相成儀ニ候哉否伺

第十七章 建白書差出方心得

第二百卅七條

(埼玉縣) 懲役人建言ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引官令揭示心得ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引建白書差出方心得ノ部

第十八章 外國人雇入手續

第二百卅八條

(鹿兒嶋縣) 土木寮雇教師拜借之儀 = 付伺

第十九章 奇特者賞與規則

第二百卅九條

(宮城縣) 中目齊外一名病院設立之儀 = 付賞與伺

第二百四十條

(京都府) 吉村正道外二名強盜捕縛之儀 = 付賞與方伺

伺

第二百四十一條

(秋田縣) 大沼彦兵衛外一人賞與之儀 = 付伺

第二百四十二條

(東京府) 深江庄兵衛樹木植付ノ儀 = 付賞與伺

第二百四十三條

(京都府) 渡邊廣之助退賞方之儀伺

第二百四十四條

(靜岡縣) 山田文次郎賞與之儀 = 付伺

第二百四十五條

(宮崎縣) 農者與兵衛并妻磯野兩名賞與之儀 = 付伺

第二百四十六條

(長野縣) 宮尾大和一學資寄附之儀 = 付賞與方伺

第二百四十七條

(千葉縣) 學校病院等へ費用ヲ差出セ者賞與之儀

本朝民鑑第二版ノ三索引外國人雇入手續ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引奇特者賞與規則ノ部

付伺

第二百四十八條

(白川縣) 野村繁昌照賞與之儀 = 付伺

第二百四十九條

(鹿兒島縣) 櫻島平民與八長女ケサ鶴賞與之儀 = 付伺

第二百五十條

(長崎縣) 岩永文吉外五人難船救助之儀 = 付賞與方伺

第二百五十一條

(島根縣) 大島カ子賞與之儀 = 付伺

第二百五十二條

(和歌山縣) 宮西庄左衛門賞與之儀伺

第二百五十三條

(京都府) 益井元右衛門賞與之儀 = 付伺

第二百五十四條

(佐賀縣) 大塚甚左衛門義脫檻人捕縛之儀 = 付賞與

伺

第二百五十五條

(千葉縣) 三代川乙次郎妻マツ賞與之儀 = 付伺

第二百五十六條

(高知縣) 奇特者賞與之節賞金ヲ品物ニ換へ曾遺不

苦哉否伺

第二百五十七條

(愛知縣) 石黒兵吉外一人賞與之儀伺

第二百五十八條

本朝民鑑第二版ノ三索引奇特者賞與規則ノ部

(宮崎縣) 日高幾次郎後家 ヲ 賞與之儀 = 付伺

第二百五十九條

(福岡縣) 松岡九一郎儀祖父九平代 ヨリ 水利 = 沁力  
ヲ 盡シ 候儀 = 付賞與方伺

第二百六十條

(濱田縣) 益田直資追賞之儀 = 付伺

第二百六十一條

(愛知縣) 竹内萬吉外十一人難船救助 = 付賞與之儀  
伺

第二百六十二條

(秋田縣) 吉野次郎賞與之儀伺

第二百六十三條

(和歌山縣) 華族徳川茂家學校寄附之儀 = 付御届

第二百六十四條

(名東縣) 吉田嘉六賞與之儀伺

第二百六十五條

(磐前縣) 佐藤今朝吉賞與之儀 = 付伺

第二百六十六條

(東京府) 野村慶三賞與之儀伺

第二百六十七條

(酒田縣) 相蘇武藏賞與之儀伺

第二百六十八條

(奈良縣) 大藤友吉賞與之儀伺

第二百六十九條

(東京府) 華族從四位諏訪忠誠實母清昌院へ孝養之儀ニ付上申

第二百七十條

(椽木縣) 一般人民ヨシテ強盜等ヲ捕縛セシカ爲疵傷ヲ受ケシモノ療治料給與之儀ニ付伺

第二百七十一條

(滋賀縣) 學校寄附金之儀ニ付伺

第二百七十二條

(廣島縣) 石川久次強盜捕縛ノ爲メ負傷之儀ニ付伺

第二百七十三條

(福岡縣) 手代逸雄外五人賞與之儀ニ付伺

第二百七十四條

(大分縣) 高村嘉七賞與之儀ニ付伺

第二百七十五條

(筑摩縣) 片桐吉左衛門叔母タル學校寄附金之儀ニ付賞與伺

第二百七十六條

(廣島縣) 和田吉左衛門等險路切開之儀ニ付賞與伺

第二百七十七條

(青森縣) 武田熊七石井利兵衛等賞與之儀ニ付伺

第二百七十八條

(埼玉縣) 強盜ノ企テナシ未ダ行ハサル者捕縛之節賞與之儀伺

第二百七十九條

(神奈川縣) 巡查賞與之儀ニ付伺

第二百八十條

(静岡縣) 巡查久永重遠外九名賞金下渡方之儀伺

第二百八十一條

(熊谷縣) 人民ニシテ強盜捕縛賞與之儀伺

第二百八十二條

(京都府) 故熊谷直孝追賞之儀ニ付伺

第二百八十三條

(岐阜縣) 民費設置ノ選卒賞與之儀伺

第二百八十四條

(青森縣) 賞與條例中之儀ニ付伺

第二百八十五條

(山形縣) 諸犯則之者ヲ見出訴出ル者賞與之儀伺

第二百八十六條

(福嶋縣) 阿部茂兵衛外五十七人賞與之儀伺

第二百八十七條

(千葉縣) 澤田寅吉人殺搜索之儀ニ付賞與伺

第二百八十八條

(島根縣) 官員皆勤賞與之儀ニ付伺

第二百八十九條

(石川縣) 會社千秋組献金之儀ニ付伺

第二百九十條

(警視廳) 盜品届出之者處分之儀伺



第二百九十一條

(大坂府) 難破船救助之儀 = 付伺

第二百九十二條

(宮城縣) 佐藤恆太郎書籍寄附之儀 = 付伺

第二百九十三條

(岡山縣) 上湊正義學校開設之儀 = 付賞與之儀伺

第二百九十四條

(茨城縣) 賞盃運送ノ儀 = 付伺

第二百九十五條

(長崎縣) 中村佐市外一人棄兒養育之儀 = 付賞與伺

第二百九十六條

(大分縣) 中川壽太郎學資寄附之儀 = 付賞與伺

第二百九十七條

(茨城縣) 井上權左衛門後家チカ賞與之儀伺

第二百九十八條

(鳥取縣) 吉田長平賞與之儀伺

第二百九十九條

(三重縣) 十圓以下寄附金賞與之儀 = 付伺

第三百條

(熊谷縣) 坂ノ下武右衛門救助之儀伺

第三百一條

(京都府) 奇特者賞與規則御施行前賞與チ行ヒシ者

ニテ五年ヲ經テ志操チ變セサル者再賞之

儀 = 付伺

本朝民鑑第二版ノ三索引奇特者賞與規則ノ部

第三百二條

(茨城縣) 小林半兵衛棄兒養育之儀ニ付賞與伺

第三百三條

(長野縣) 縣廳新築献金之者右場止上ハ下戻スヘキ

ヤ否伺

第三百四條

(京都府) 津田八郎兵衛究民救助之儀ニ付賞與伺

第三百五條

(大坂府) 英人ステツマン外三人覆役船救助ニ付賞

與伺

第三百六條

(筑摩縣) 河野百壽外六人献金ノ儀ニ付伺

第三百七條

(大坂府) 吉村淺次郎賞與ノ儀ニ付伺

第三百八條

(山梨縣) 有志金ヲ募リ巡查屯所等設立之節賞與ノ

儀伺

第三百九條

(鳥取縣) 區戸長滿年賜金之儀ニ付伺

第三百十條

(福島縣) 道路橋梁修繕等ニ力役セシメ者賞與之儀伺

第三百十一條

(三瀨縣) 金穀寄附之儀ニ付伺

第三百十二條

本朝民鑑第二版ノ三索引特奇者賞與規則ノ部

(筑摩縣) 竹原俊峰觀音經寄附之儀ニ付賞與伺

第三百十三條

(愛媛縣) 大木猶藏外五人消防之爲燒死セシニ付處

分伺

第三百十四條

(司法省) 犯則者ヲ見認メ訴出ル者賞金渡方ノ儀伺

第三百十五條

(愛知縣) 黒野喜助外二人賞與之儀伺

第三百十六條

(千葉縣) 戸長勉勵賞與之儀ニ付伺

第三百十七條

(秋田縣) 賞與條例中明文ナキ條々伺

第三百十八條

(神奈川縣) 道路修繕費等へ出金之儀ニ付伺

第三百十九條

(島根縣) 強竊盜捕護賞與之儀ニ付伺

第三百二十條

(新潟縣) 自己編纂之書籍ヲ以テ献納ノ者賞與之儀

伺

第三百二十一條

(福岡縣) 縣下暴舉之際黨與セシ士族救助料取上之

儀伺

第三百二十二條

(和歌山縣) 縣官任期例處分心得第五項之儀ニ付伺

第三百二十三條

(山形縣) 兩種之賞與ヲ同時ニ行フ儀ニ付伺

第三百廿四條

(京都府) 岡田孫兵衛外一人賞與之儀伺

第三百廿五條

(小倉縣) 私費ヲ以川崩地理立之者賞與方伺

第三百廿六條

(京都府) 賞盃製造之儀ニ付伺

第三百廿七條

(神奈川縣) 清國人梁兆勝賞與之儀ニ付伺

第十四章 巡查賞與規則

第三百廿八條

(滋賀縣) 微罪ニテ捕獲之後貨幣贗造又ハ強盜等之

罪發覺スルキ捕獲者賞與之儀伺

第三百廿九條

(京都府) 農民ニシテ反獄者捕縛ニ盡力セシ者賞與

之儀伺

第三百三十條

(警視廳) 兇徒探索之者ニ賞與之儀伺

第三百卅一條

(青森縣) 巡查滿年恩賞之儀伺

第三百卅二條

(高根縣) 偽造寶貨之者捕縛賞與方伺

本朝民鑑第二版ノ三索引奇特者賞與規則ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引巡查賞與規則ノ部

第三百卅三條

(大坂府) 甲乙兩廳ニ跨ル警察上賞與取計方伺

第三百卅四條

(三重縣) 偽造寶貨ノ罪囚逃亡之節捕縛セシモノ賞與之儀伺

第三百卅五條

(秋田縣) 巡查賞與之儀ニ付伺

第三百卅六條

(高知縣) 一賊ヲ數名ニテ獲ルルニ賞與方伺

第二十一章 古金銀取扱心得

第三百卅七條

(京都裁判所) 丁銀豆銀賣買之者處分方伺

第三百卅八條

(京都裁判所) 同上之儀伺

第二十二章 河港道路修築規則

第三百卅九條

(熊谷縣) 道路修築費賦課之儀ニ付伺

第三百四十條

(廣島縣) 水害防禦費之儀ニ付伺

第三百四十一條

(警前縣) 濱街道一里塚廢毀ノ儀ニ付伺

第三百四十二條

本朝民鑑第二版ノ三索引古金銀取扱心得ノ部  
本朝民鑑第二版ノ三索引河港道路修築規則ノ部

(滋賀縣) 道幅取廣ク民費施業之儀伺

第三百四十三條

(宮城縣) 新道切開ニ付潰地處分之儀伺

第三百四十四條

(滋賀縣) 新規通船堀割之儀ニ付伺

第三百四十五條

(熊谷縣) 新規道路取設之儀ニ付伺

第三百四十六條

(山形縣) 新道取開道錢取立之儀ニ付伺

第三百四十七條

(新潟縣) 山路開拓之儀ニ付伺

第三百四十八條

(足柄縣) 新道附替橋錢取立之儀伺

第三百四十九條

(水澤縣) 街道變更之儀ニ付伺

第三百五十條

(岐阜縣) 民費ヲ以道路附換之儀伺

第三百五十一條

(敦賀縣) 民費堀割之儀ニ付伺

第三百五十二條

(椽木縣) 道路更替之儀伺

第三百五十三條

(椽木縣) 民費ヲ以堀割之儀ニ付伺

第三百五十四條

本朝民鑑第二版ノ三索引河港道路修築規則ノ部

- (東京府) 新川堀割之儀ニ付伺
- 第三百五十五條
- (岩手縣) 苗木植付之儀ニ付伺
- 第三百五十六條
- (長野縣) 橋梁架渡之儀ニ付伺
- 第三百五十七條
- (濱松縣) 民費ヲ以船路疏穿之儀伺
- 第三百五十八條
- (度會縣) 民費ヲ以道幅取廣之儀伺
- 第三百五十九條
- (東京府) 民費ヲ以水路堀割之儀ニ付伺
- 第三百六十條

- (山口縣) 新規架橋之儀ニ付伺
- 第三百六十一條
- (椽木縣) 通船路開漕之儀届
- 第三百六十二條
- (和歌山縣) 私費ヲ以新道開鑿之儀伺
- 第三百六十三條
- (名東縣) 民費ヲ以浪除設置之儀伺
- 第三百六十四條
- (敦賀縣) 私費ヲ以車道切開之儀伺
- 第三百六十五條
- (石川縣) 有志之者自費ヲ以車道切開之儀伺
- 第三百六十六條

(新潟縣) 民費ヲ以板橋架渡之儀伺

第三百六十七條

(橡木縣) 民費ヲ以新道取開之儀伺

第三百六十八條

(福島縣) 廢驛之儀ニ付伺

第三百六十九條

(北條縣) 村費ヲ以水路堀廣之儀伺

第三百七十條

(兵庫縣) 道路附換之儀ニ付伺

第三百七十一條

(青森縣) 新道切開之儀ニ付伺

第三百七十二條

(東京府) 道路變更之儀ニ付伺

第三百七十三條

(足柄縣) 新道附換之儀ニ付伺

第三百七十四條

(若松縣) 堤防其他修築經費勘定帳之儀ニ付伺

第三百七十五條

(廣島縣) 堤防修築用石切出之儀伺

第三百七十六條

(筑摩縣) 道路掃除人傭賃之儀ニ付伺

第三百七十七條

(埼玉縣) 新規架渡ノ橋名稱之儀ニ付伺

第三百七十八條

本朝民鑑第二版ノ三索引河港道路修築規則ノ部



- (椽木縣) 私費ヲ以新道營設之儀ニ付伺
- 第三百七十九條
- (尾柄縣) 民費ヲ以道換之儀伺
- 第三百八十條
- (愛媛縣) 新規架橋之儀伺
- 第三百八十一條
- (兵庫縣) 新道附換之儀伺
- 第三百八十二條
- (廣島縣) 民費ヲ以道路更正之儀ニ付伺
- 第三百八十三條
- (大分縣) 河港道路目途金之儀ニ付伺
- 第三百八十四條

- (宮城縣) 道路並木植付之儀ニ付伺
- 第三百八十五條
- (磐前縣) 溝渠及川幅取調之儀ニ付伺
- 第三百八十六條
- (山梨縣) 道路修築費等課出ヲ拒ム者處置方伺
- 第三百八十七條
- (新川縣) 三菱會社商船延漕之儀ニ付伺
- 第三百八十八條
- (熊谷縣) 國道縣道取調之儀ニ付伺
- 第三百八十九條
- (廣島縣) 堤上堤下ニアル小屋等借地料之儀ニ付伺
- 第三百九十條

(敦賀縣) 道幅取廣之儀 = 付伺

第三百九十一條

(東京府) 道敷買上之儀 = 付伺

第三百九十二條

(廣島縣) 河港等級之儀 = 付伺

第三百九十三條

(東京府) 道敷上地之儀 = 付伺

第三百九十四條

(千葉縣) 新川岸取開之儀 = 付伺

第三百九十五條

(堺縣) 道幅改正之儀 = 付伺

第三百九十六條

(山口縣) 道路修繕入費之儀 = 付伺

第三百九十七條

(大分縣) 道路幅員之儀 = 付伺

第三百九十八條

(愛知縣) 民費ヲ以道路變更之儀伺

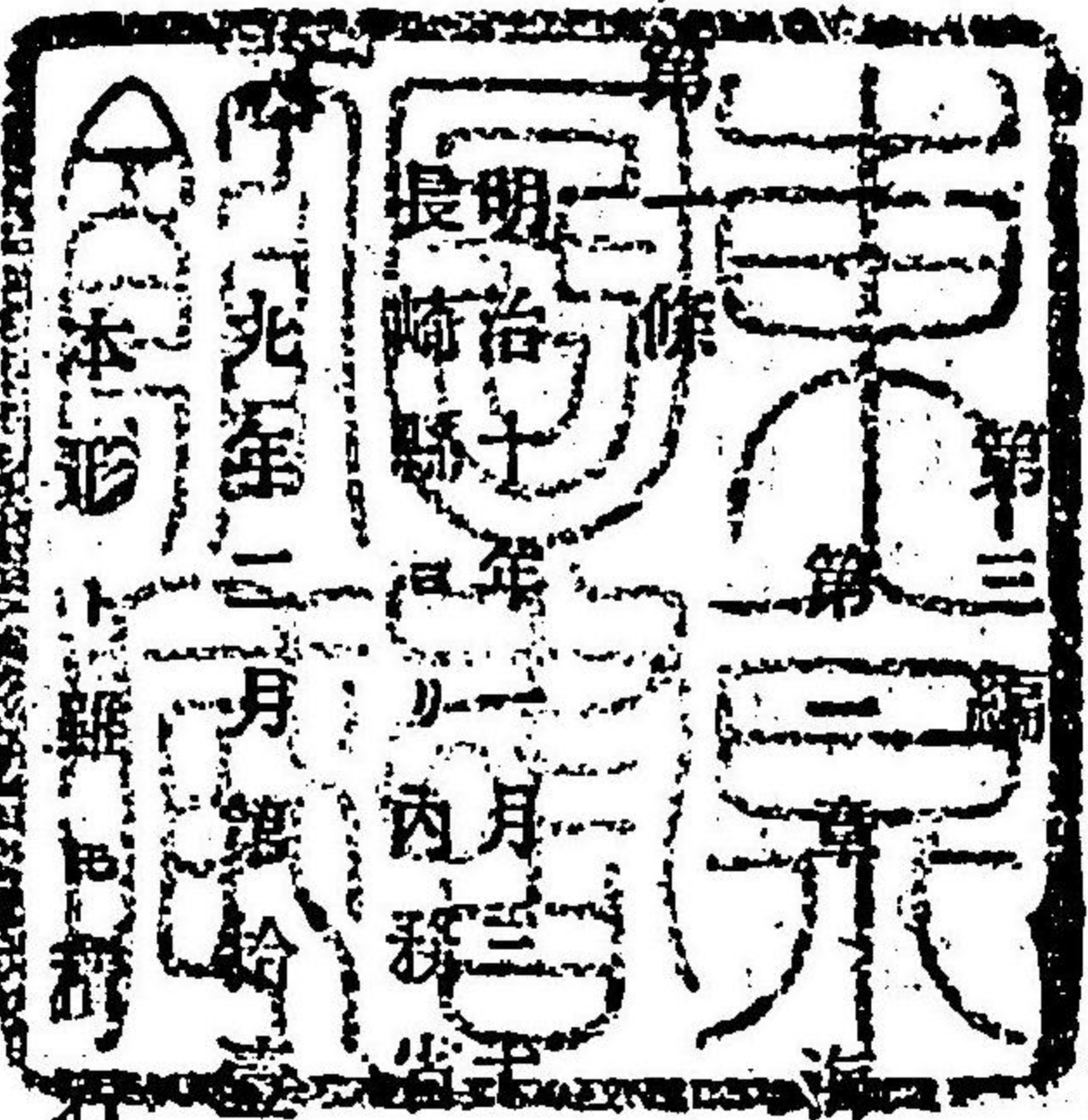
第三百九十九條

(廣島縣) 假橋架設入費之儀 = 付伺



本朝民鑑第二版

田中 信 顯 纂 編



上 衛 突 豫 防 規 則

一 日  
一 伺

號 公 布 第 壹 條 中 西 洋 形 廻 漕 船 ハ 勿 論 日

本 形 上 衛 突 豫 防 規 則 百 石 以 上 ニ シテ 全 部 若 ク ハ 一 部 分 甲 板 チ

具 シ 航 洋 ス ヘ キ 廻 漕 船 ハ 明 治 七 年 一 月 第 五 號 海 上 衛 突 豫

防 規 則 チ 屹 度 遵 守 シ 必 ス 點 燈 ス ヘ シト 有 之 然 ルニ 積 石

百 石 未 滿 ニ シテ 全 部 或 ハ 一 部 分 ノ 甲 板 チ 具 シ タル 廻 漕

海 上 衛 突 豫 防 規 則

船多々有之右等ノ類ハ積石ヲ問ハス總テ小形ノ舷燈供  
用爲致可然哉又ハ七年月一第五號公布第九條大小漁船ノ  
類ニ倣ヒ點燈爲致可然哉且九年御省丙第五號達第壹條  
舷燈製造ヨリ其見本差出候節管轄廳ヨリ驛遞局ヘ送付  
ノ費用ハ總テ製造人ヘ償却爲致可然哉明文無之ニ付相  
伺候也

(指令)

書面百石以下ニシテ全部若クハ一部分甲板ヲ具スル回  
漕船舷燈ノ儀ハ追テ御制定相成候迄百石以上ニ供用ス  
ヘキ分掲燈爲致可致尤本船ノ都合ヨリ解漁船同様  
形ノ舷燈相用候儀ハ可爲適宜且舷燈検査ノ爲メ運送費  
ノ如キハ製造人ヨリ償却可爲致事

第二條

明治八年一月箱館裁  
判所ヨリ司法省ヘ伺

海上衝突豫防規則第七條帆船及蒸氣船ノ差別ナク云々  
白色亮明ノ一燈ヲ標スヘシト有之若此規則ヲ犯シ標燈  
ヲ照セスト雖モ規則中罪科罰則等ノ明文之ナキニ付其  
罪ヲ問ハスシテ可然哉又ハ違令ノ輕重ニ問ヒ候儀ニ可  
有之哉

同第二十條何レノ船ニ於テモ點燈信號又ハ看守ヲ怠ラ  
ルカ或ハ總シテ航海者ノ職務ニ屬ス云々怠タルキハ船  
主船長水夫ニ至ル迄其責逃ル可カラサル事ト有之其責  
トハ假令ハ此規則ヲ犯シ他船ヲ衝突破毀或ハ沈沒等ノ  
害ヲ醸シ候ハ其賠償等ノ責ヲ受ケ候事ニテ違令ノ罪ハ

海上衝突豫防規則

問ハスシテ可然哉定擬致兼依テ此段相伺候也

(指令)

第一條 規則第二十條其責不可逃ノ文ニ照シ標燈ノ規則ニ違犯シ破毀沈沒等ノ害ヲ被ラシムル時ハ其賠償ノ責ニ任セシム可シ

但刑法ニ問ニ及ハス

第二條 前條ノ通タル可シ

第三條

明治八年十二月廿二日  
大坂府ヨリ内務省ヘ伺

船燈製造販賣ノ儀御取調中ニ付追テ何分ノ御達相成候迄可見合旨御省乙第百六拾貳號ヲ以御布達有之候處當府下ニ於テハ再度ノ御達モ有之且ッ入津ノ船舶夥敷旁

其見込ヲ以類器職業ノ者ヲ勸奨シ追々製作既ニ今日迄ニ賣拂殘リ高八百五拾個右關スル仕入品等ノ代價合金三千圓餘ニ至リ此儘販賣見合ハセ候テハ其資金等償却ノ途ニ差間難澁ノ趣別紙ノ通申出憫然ノ事ニ付向後ノ製作ハ爲見合可申候得共從來製造出來ノ分販賣差許申度相伺候也  
別紙  
除之

(指令)

書面伺ノ趣ハ無餘儀情實ニ相聞候間其府下ニ於テ製造ノ船燈ハ薄弱粗糙ノ器製ニシテ決シテ合規ノ器品ニ無之故ニ遠洋航海ノ用ニ難相堪然ントモ既製ノ分ハ日本形船積石百石以下ニ限リ販賣方差許候儀ハ不苦事

第四條

海上衝突豫防規則

明治八年十二月廿八日  
兵庫縣ヨリ内務省へ伺

管下兵庫江川町西岡豐三郎儀海上衝突豫防規則ヲ奉シ  
紅白綠船燈製作販賣ノ儀去月中願出候ニ付許可致シ此  
程追々出來來ル九年一月二日ヨリ發賣届出候際今般御  
省乙第百六十二號ヲ以右製造販賣共ニ見合セ候様御達  
有之然ルニ發賣ノ際ニ至リ差留候テハ損失不少甚ク憫  
然ニ候間木人製造ノ器ハ御規則ニ準據製作候儀ニ付爾  
今製作販賣共御許可相成度候也

(指令)

書面船燈ノ儀ハ合規ノ器品ニ無之テハ危害ヲ可生ニ付  
篤ク検査ノ上何分ノ指令可及候條各種ノ現品一箇宛驛  
遞察へ差出可申尤代價並既製ノ分員數取調可申出事

第二章 航海公証規則

第五條

明治七年十二月廿三日  
東京府ヨリ内務省へ伺

當府下彌亮町一町目二番地秋元長平儀伊豆七島ノ外島  
島躰島無人島三島ノ内鳥糞充満致シ候趣傳承候ニ付右  
鳥糞其他廢物ノ内有用ノ品物廻漕致シ度爲試驗渡島ノ  
儀及出願候間別紙願書之略相添相伺候也

(指令)

書面秋元長平渡島出願ノ趣伊豆近傍ノ諸島へ鳥糞爲試  
驗航海候儀ハ聞置候事

第三章 西洋形商船運轉手機關手試驗規則

第六條

航海公証規則  
西洋形商船運轉手機關手試驗規則

明治十年八月一日新  
潟縣ヨリ内務省へ伺

昨九年六月中第九十四號公布西洋形商船長以下技術試  
驗免狀規則追加本年七月一日ヨリ施行ノ處當縣ノ儀ハ  
纔ニ五艘ノ川漁船ニテ拾噸以上三艘其他ハ壹噸一艘二  
噸一艘有之右兩艘ハ四五里ノ川路ニテ乘客通常一日平  
均七八名ニ過キサルヨリ右追加第三條ニ照シ船長及ヒ  
機關手ノ二名ヲ雇入候テハ入費相嵩ニ難澁ノ趣ヲ以テ  
機關手一名ニテ余ハ是迄使役致來候者相用度段船主ヨ  
リ願出取調候處若シ之ヲ許可セサルニ於テハ廢業ノ外  
無之不得止儀ニ付小漁船ニ限リ船長或ハ機關手ノ内一  
名ニテ運航差許可然哉相伺候也

(指令)

書面一二噸積漁船ノ儀ハ昨九年第九十四號公布規則ニ  
準據不及儀ト可相心得事

第四章 開港場出入規則

第七條

明治八年三月九日宮  
崎縣ヨリ内務省へ伺

一 廻漕船ノ内空船ニテ歸港并他港へ碇泊等ノ手續キ相  
伺候處甲港ノ船於乙港荷物揚陸相濟空船タリモ出帆  
ノ節ハ其筋へ爲届出出港免狀可下渡且空船風潮ノ不  
順ニヨリ他港へ二十四時間以上碇泊スル者定ノ通碇  
泊稅取立候儀ト可相心得旨御指令有之就テハ甲港空  
船ニテ出帆乙港へ入船スルモ入港免狀下渡候儀ニ可  
有之且空船出入ノ都度第一號第三號第五號書式ノ内

開港場出入規則

積荷目録ノ通ハ目録ノ通ノ四字ヲ無之ノ二字ニ直シ第三號  
 甲書式ノ内并積荷ハ消除甲乙書式ノ内揚陸ノ四字ヲ  
 入港ノ二字ニ直シ都テ直消共甲ノ書式ノ内ハ船頭乙  
 ノ書式ハ改所ノ印ヲ捺シ免狀下渡可然哉  
 一第二號積荷目録雛形ニ改所印願人印ト墨書有之右ハ  
 印ト有之下タニ改所并願人ノ印ヲ据候儀ト相心得可  
 然哉

右件々相伺候也

(指令)

書面ノ趣第一个條諸書式ノ内不用ノ文字ハ朱點ヲ以取  
 消シ代用可致第二个條改所并願人印ト有之候ハ綴目ニ  
 割印候儀ト相心得事

第八條

明治八年十二月九日秋  
 田縣ヨリ内務省ニ伺

本年第六十三號公布ニ依テ國內回漕規則當分停止シ  
 各開港場出入規則御施行ニ付テハ不開港ノ儀ハ碇泊稅  
 并手數料共悉皆取立ニ不及船改所等モ相廢シ可然儀ニ  
 候哉然ルニ本年第拾四號公布北海道諸產物出港稅則  
 等ノ儀モ如何取計可然哉相伺候也

(指令)

書面國內回漕規則當分停止ニ付テハ稅料收納ハ勿論船  
 改所トモ相廢可申尤本年第拾四號公布北海道諸產物出  
 港稅納否檢査ノ儀ハ最寄區戶長ノ内ニ兼務申付從前ノ  
 通爲取扱可申事

開港場出入規則



第九條

明治八年七月二十五日  
度會縣ヨリ司法省へ伺

第一條 外國軍艦商船等天氣都合等ニテ開港場ニ非サ  
ル地方港へ一時駐錨致シ其屬員上陸シテ違警犯及其他  
輕罪ヲ犯セシ節名札取置御届仕可然哉

但シ名札所持無之時ハ如何取計可申哉

第二條 前條場合ニ於テ殺傷或ハ剽盜放火強姦等司法  
警察規則附録六條ノ如ク目前ニ顯レタル罪ヲ犯セシト  
キハ其場ニ其人ヲ留メ置キ其船長へ引渡ノ手續キテ爲  
シ而シテ御届仕可然哉相伺候也

(指令)

第一條 伺ノ通 但書中ノ節ハ姓名住所等取調書留置

可申事

第二條 伺ノ通

第十條

明治八年十月廿三日山  
口縣ヨリ内務省へ伺

今般當管下赤間關へ三菱商社漁船爲取締税關出張所設  
立相成候ニ付テハ外國船水先人上陸取扱手順ノ内第一  
條ヨリ第四條マテハ税關監吏ノ管掌ニシテ第五條第六條  
ハ地方ノ管掌ニ可有之依テ左ノ條件相伺候

第一條

一手順中第五條寢食等ノ現ニ要用ナルモノハ相應ニ賣  
與云々ハ外國船寄錨中一時寢食需用ノ物品ニ限ル譯  
ニ候哉又ハ不開港取締規則中ニモ相見候通無余儀事

開港場出入規則

○候得ハ神戸長崎其他該船着港迄航海中需用ノ寢食要品及薪水等ヲ見積賣與不苦儀ニ候哉

第二條

一該地ノ儀ハ不開港場ニ付外國人猥ニ上陸不相成ハ勿論ニ候處各國軍艦潮待等ニテ碇泊致シ自然陸地へ用事有之上陸致度段示談候節ハ不得已情實見極ノ上ハ差許不苦儀ニ候哉

但該地電信局詰居ノ外國人へ應對致度段往々申立候儀モ有之候ニ付本文相伺候

第三條

一外國人上陸致度段申立候節ハ百方說諭ヲ加ヘ可申候得共言語不通ヨリシテ暴力ニ揚陸致候節ハ強テ差止

候儀ハ力ニ不能候ニ付船號國名船主ノ名等開帳シ置

キ御省へ具狀可致儀ニ候哉

第四條

一先般該地支應ヲ廢シ現今大區扱所ノニ立置候處前三條ノ取扱ニ付テハ區戶長ノニニテハ取計カタキ儀モ有之且該地ハ他港トモ違ヒ内外國船數多入津事務繁劇ノ事ニ付兼テ縣廳ヨリ吏員壹名出張爲致置稅關監吏ト諸事打合セ取締行届候様仕度右吏員月給并ニ費用共別途ニ御下渡相成度候

但軍艦其他寄碇ノ外國船往々縣廳官員へ應對致度段申立候ニ付本文相伺候

第五條

一外國軍艦其他小倉管內田ノ浦沖其外ニ碇泊候節需用  
要品等多クハ亦間關ニテ辨用致來候ニ付碇泊事故取  
計應接等自然亦間關ヨリ取扱候様相成來候得共碇泊  
場所小倉縣管內ニ候得ハ當縣ニテ取計可致筋ニ無之  
候哉

(指令)

書面伺ノ廉々左ノ通可相心得候事

第一條三條 伺ノ通

第二條 各國軍艦ニ限リ伺ノ通

第四條 難聞届候條區戶長ニテ可爲取扱候事

第五條 他管內ニ碇泊候共亦間關ニ需用ノ物品ヲ辨用

致候分ニ取糾可申候事

第十一條

明治九年四月十一日兵  
庫縣ヨリ內務省ニ伺

石炭油輸入ノ儀累年増加候ニ付テハ漸次貯藏ノ場所ニ  
差支往々許多ノ容量ヲ人家接近ノ所ニ貯藏イマシ危變  
不測隨テ内外人民混雜モ不少必竟別ニ貯藏ノ場所無之  
テハ不相成場合ニ候間神奈川縣振合承合候處同縣ニ於  
テハ既ニ官費取設ノ趣就テハ當縣ニ於テモ同縣同様御  
取設可相成トノ儀ニ候ハ、各國領事ニモ打合規則案取  
調且地所并建築費等見込相立更ニ可申出相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ各國領事ニモ打合規則案取調可然地所相撰  
諸經費見積相立更ニ可伺出事

開港場出入規則

第十二條

明治八年八月十八日酒田縣ヨリ内務省へ伺

甲港ヨリ乙港へ可赴商船一時風潮ノ不順ニ依リ丙港へ入港二十四時間以上碇泊右丙港ノ改所へ届書差出候得ハ甲港ノ出帆免狀ハ取收メ更ニ御規則書式ニ照準免狀相渡出帆爲致候儀ニ候ヤ又ハ右免狀相渡候共猶甲港ノ免狀モ其儘渡シ置出帆爲致乙港ノ改所へ一同爲差出候儀ニ可有之ヤ御規則上了解致兼相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣仕出港ノ出帆免狀及積荷目録等ハ一應點檢ノ上其儘下ケ戻シ別ニ規則第七條ノ手續ヲ以出帆差許可申事

第五章 國內回漕規則

第十三條

明治八年一月八日茨城縣ヨリ内務省へ伺

明治七年第百二十三號ヲ以テ公布相成候御國內回漕規則第二條中第三號甲ノ書式ニ從テ記シタル願書二通ニ船免狀或ハ船稅鑑札甲港ノ出帆免狀積荷目録ヲ副へ差出スヘシ又第三號甲ノ書式中何月幾日當港着船仕候ニ付船稅御鑑札何々港御免狀并積荷目録ト有之船免狀記載無之右船免狀ノ儀ハ是迄於當縣ハ相渡候儀無之如何ノ御規則ニ候哉入港届ニ記載無之ヲ可然哉且鑑札ノ儀ハ辛未八月大藏省公布ニ照準船形ニ從テ石數噸數等ヲ記載税金記載無之處右ヲ船稅鑑札ト相唱可申哉

國內回漕規則

一同第五號乙ノ書式中手数料并碇泊税銀正ニ云々ト有之第拾五條碇泊税收領金位ヲ以御定相成候處五號ニ限銀字有之候ハ意味有之儀ニ候哉且銀位金位ト比較スル時ハ幾何ニ相當候哉  
右件々了解致兼相伺候也

(指令)

書面ノ趣第一條船免狀ノ儀ハ去ル庚午年以來西洋形商船ニ限リ下渡シ有之候儀ニテ船税鑑札ハ商船一般所持可致管ニ付三號書式ニ船免狀書載無之事ト可相心得鑑札ノ儀ハ伺ノ通第二條書式中碇泊税銀云々ト有之銀ノ文字ハ記載ニ不及候事

第十四條

明治七年十一月東京府ヨリ内務省ニ伺

船舶入津出帆税表ノ内噸數ヲ以唱候船ハ港内取締規則第四條但書ノ通石ニ直シ取立候處石積税額定法并増加等段階有之噸數調方不都合ニ付是迄ノ通石積商船ノ廉ニ組込仕上テ申度相伺候也

(指令)

書面伺ノ通可取計事

第十五條

明治七年十一月廿日長崎縣ヨリ内務省ニ伺

昨明治六年分碇泊税納譯書致進達候處右御指令但書ヲ以六年分ヨリ取調可差出旨ニテ船改所諸入費受取方并船舶入出港税上納表雕形御下渡ニ相成候處港内取締規

國內回漕規則

則第四條ニハ貳百拾石以上拾石ニ付七釐五毛五百拾石以上拾石ヲ増毎ニ五釐ヲ増加スル旨掲載有之右納表離形ニハ貳百石未滿五百石未滿ト有之又表中税金壹石當ト有之處規則ニハ拾石ニ付何程ト有之尤拾石ト壹石トハ額位毛絲迄相存候ハ、税額ノ差違無之候得共貳百拾石以上ニ至リテハ壹石ノ算當不出來右ハ石數ヲ以テ割出シ相認メ候ヤ左スレハ表面上ヲ作ルケメニ計算過不足ヲ生シ又貳百石ヲ引去殘數ヲ認ル時ハ船數ニ至リ五百拾石以上ノ分ハ一艘三口ニ掲載候様相成離形了解致シ兼候間凡例詳細御達相成度隨テ當縣管内三百餘村ノ儀何レモ沿海ノ村落ニシテ一村内二三个所以上ノ船着場有之一个所毎ニ仕譯致候テハ多分ノ手數ニテ調査又

容易ナラス殊ニ離島多ク月々取廻メ方出來不申矢張一浦ツ、仕譯致シ可差出哉又ハ港ト稱スヘキ地ノニ取調可申哉且前條ノ次第ニ付昨明治六年并本年分ハ何分仕譯不出來候間來八年ヨリ御達ニ基キ取計申度併テ相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣離形面何石未滿ト有之候ハ何石迄ノ誤ニ候條其旨可相心得且壹石當ノ儀ハ貳百壹石ヨリ五百石迄五百壹石以上共總數合計ノ壹石當記載可致尤毛以下ノ有奇數ハ餘ノ文字ニテ書止メ不苦税表仕譯ノ儀ハ船改所設置ノ場所毎ニ組立可申其他伺ノ通可相心得事

第十六條

國內回漕規則

明治七年十一月廿四日  
大坂府ヨリ内務省へ伺

於當港難風ノタメ沈没或ハ水入浮船相成候後船破修復  
相加へ再度積荷出來候分ト雖モ其積荷幾分ヲ流失ハ或  
ハ帆檣等打折候程ノ難船ハ定例ノ碇泊稅取立ニ不及候  
哉トト難風ニ逢ヒ積荷水濡ニ相成候トモ其積荷不流  
失船破修復相加へ再度積荷出來候分ハ定例ノ碇泊稅取  
立可申哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ同ノ通り可相心得事

第十七條

明治八年一月十五日宮  
崎縣ヨリ内務省へ伺  
港内取締御規則ノ内甲港ノ船於乙港積荷揚陸濟其港ニ

テ全ク物品不積入空船ニテ甲港へ歸帆ノ節ハ乙港改所  
へハ別段不及届候哉且又右體積荷無之船風潮ノ不順ニ  
依リ他港へ二十四時間以上碇泊スルトモ該港ノ改所へ  
亦右同様相心得候テ可然哉相伺候也

(指令)

書面甲港ノ船於乙港荷物揚陸相濟空船タリ共出帆ノ節  
ハ其筋へ爲届出山港免狀可下渡且空船風潮ノ不順ニ  
依リ他港へ廿四時以上碇泊スルモノハ定ノ通り碇泊稅取  
立候儀ト可相心得事

第十八條

明治八年二月二日岐  
阜縣ヨリ内務省へ伺  
御國內迴漕御規則中

國內迴漕規則

第五條 凡諸商船出帆入港共免狀相渡候節ハ船ノ大小ニ拘ラス免狀一通ニ付手数料トシテ貳錢宛可相納事  
第十六條 五十石未滿ノ小船ハ碇泊稅手数料等相納ルニ不及事

右兩條ノ趣勘考仕候處五十石未滿ノ小船手数料ハ不及納候得共免狀ハ必所持可致儀ト相心得申候然ルニ書式中無手数料ノ離形不相見取扱方如何相心得可然ヤ相伺候也

(指令)

書面五十石未滿ノ船ハ免狀相渡ニ不及儀ト相心得事

第十九條

明治八年二月新治縣ヨリ內務省ヘ伺

國內回漕御規則ノ儀ハ全ク海船ニ限リ候儀ト相心得罷在其中第十二條出帆願其他ノ諸書式上梓ノ儀ニ付不分明ノ廉有之驛遞寮ヘ及照會候處右回管中海洋ニ不限湖川回漕ノ商船モ五十石以上ノ分ハ總テ右御規則ニ照準處分可相成云々尙御規則熟閱候得共前書湖川回漕ノ商船云々ニ照合スヘキ廉無之且又湖上回漕或ハ内川運輸ノ船ハ俗稱高瀬船或五十石以上ノ分碇泊稅手数料等收入取計候上ハ湊ニ限リ候儀ハ無之素ヨリ湖川ノ儀荷物陸揚并積込共多分ハ沿湖沿川各所河岸々々ヘ掛リ候儀ハ有之然ル時ハ甲湊有之場所ニ碇泊スル時ハ納稅乙河岸無之場所取建ヘ陸揚候節ハ賦稅ヲ免レ不都合ニ可有之

國內回漕規則



湖上並内川共河岸場取開有之場所、悉皆船改所設立候儀ニ有之候ヤ御規則ニ見合セ内川船へ關涉ノ儀ハ到底了解難致相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ湖川運用ノ船タリトモ五十石以上ノ分ハ碇泊稅手數料共取立候儀ト可相心得尤右改所等ノ儀ハ揚陸場ノ繁閑ニ隨ヒ其所區戶長ニ兼務爲致候等適宜ノ法方相設可成丈諸費省略候様可取計事

第二十條

明治八年二月二日高知縣ヨリ内務省へ伺

明治七年第百廿三號公布回漕御規則ノ通施行可致ノ處實際上ニ於テ疑ハシキ件々有之別紙輸出物品表第八號

并第二號積荷目錄離形ノ枠中へ朱書ノ通記載候テ可然哉相伺候既ニ期限ニ至リ候ニ付御指令迄ハ明治六年第八號港内取締規則ニ照準爲取扱申度御聞置相成度併テ相伺候也

(指令)

書面ノ趣第八號物品表記載ノ儀ハ鹽ハ金石穀等ノ量目ヲ以唱候品ハ其苞束等ノ數ヲ箇數ノ部ニ斤斛等ノ量ヲ尺量ノ部へ記載候儀ト可心得積荷目錄中改所並願人印ト有之候ハ本年當省乙第七號布達ノ通目錄綴目へ捺印候儀ト可相心得事

第二十一條

明治八年二月東京府ヨリ内務省へ伺

内國回漕規則

今般廻漕規則御施行ニ付府下茅場町三菱商會ヨリ別紙ノ通伺出候處府廳限處分相成兼候廉モ有之左ニ相伺候

一第一條第二條三菱商會ハ大藏省ヨリ御預ノ派船是迄官用ヲ以テ運轉候ニ付無鑑札無免狀ニテ出入致來候處今後官用ノ餘ヲ以テ商荷物品等積加ヘ運轉候ニ付處分方伺出候處右ハ官用運轉ニ候ハ、矢張是迄ノ通無稅無免狀ニテ可被差置候得共商荷物品積ヲ以テ出入ノ節ハ商船同様手数料取立免狀付與致シ可然ヤニ存候間右船兼テ間尺打改鑑札下渡置候様致度尤官用物商品物取交積合候節ハ都テ商船同様ノ取扱ヲ以處置致度候

一第三條甲港出帆ノ船積荷之見込ヲ以テ乙港へ入着ノ

節運輸品ノ都合ニヨリ空船二十四時間未滿ニシテ出帆候節碇泊稅上納有無伺出ニ候處右ハ風潮避難ノ爲メ無餘儀入港候船トハ事實相異リ至其港目的ノ碇泊ニ付普通碇泊稅收納候儀ト存候ニ付其旨差圖ニオモヒ可然哉

一第四條避難ノ爲碇泊候向ニ於テ荷物陸揚賣拂等ノ儀ハ規則第八條ノ通差支無之候間伺ノ通相達可然ヤ

一第五條東京大坂ノ間出入度數ヲ定メ郵船ニ準シ手数料碇泊稅共雙方半方宛前納致置候様トノ願意ニ候得共右ハ御規則第九條ニモ有之候通東京ト横濱或ハ大坂ト神戸トノ如ク接近朝夕致出入候類ニ限リ候事ニ有之大坂長崎等ノ如キ遠路懸隔ノ地ハ不斷運輸候共

一个月中繰カニ五六度位ノ事ニテ免狀申受等強テ煩勞ノ儀モ有之間敷願ノ趣難聞届旨相達可然哉

(指令)

書面ノ趣ハ伺ノ通可相心得事  
但第五條郵船ノ儀ハ度数ノ多少里程ノ遠近ニ拘リ候譯ニ無之某々地ノ間ニ定規ヲ以往復シ郵船ノ規則ヲ履行候モノヲ相示シ候儀ト可相心得事

別紙

第一條

一當時大藏省ヨリ御預ノ汽船是迄船御鑑札并御免狀等都テ無之右今般御規則ニ對シ如何相心得可申哉

第二條

一右同船官用ヲ以テ航運候節ハ無届無免狀ニテ運轉致シ候處今後如何相心得可申哉且官用ノ餘リヲ以テ商荷積加候節モ如何相心得可申哉

第三條

一定繫船ヲ除ノ外諸商船港内ニ云々碇泊税可相納云々右ハ譬ヘハ甲港出帆乙港ニ出荷有之見込ヲ以テ追々其港ニ入碇ノ上時々陸地ノ都合ニ寄リ積荷不致又ハ臨時食料飲水等積入ノ爲メ便宜寄港シ廿四時間未滿ニシテ其儘出帆仕候等碇泊税ノ有無如何相心得可申哉

第四條

一御規則第八條ニ諸商船一時避難ノ爲メ碇泊シ云々積

國內回漕規則

荷揚陸賣拂ヒ云々然ニ右ハ都合ニ寄リ荷主勝手ヲ以テ荷高ノ内幾許ハ賣却幾許ハ殘置候カ又ハ船客中途上陸申出候節便宜取計御差支無之候哉

第五條

一御規則第九條ニ郵船ノ類甲乙兩港ノ間平生往來云々出入ノ每度収稅候テハ時間相費且ツ營業差支云々然ニ私共會社漁船ノ儀ハ全ク郵船外ノ譯ニ候得共諸所航海ノ中東京大坂往復ノ如キハ不時天變ヲ除ク外一ヶ月凡幾往復ノ見込有之發着定日時限等迄ハ必ス相定メ居不申候得共是迄往復ノ平均ヲ以今後ノ目論見可相立左候ヘハ自今東京大坂ノ間ニ限リ滯碇凡幾度ト相定メ本文郵船ニ準シ豫テ前稅半納候様仕度尤常

度ノ外時トシテ度數増減候節ハ適宜御仕向可申此段御許可被仰付間敷哉

第二十二條

明治八年二月廿二日愛知縣ニリ内務省ヘ伺

本年二月五日第十九號ヲ以公布國內回漕規則第十五條御改定碇泊稅五十石ニ付金五錢ト定メ二百石迄ハ十石毎ニ一錢宛ヲ増ス二百十石ニ付二十錢七釐五毛トス五百石迄ハ十石毎ニ七釐五毛宛ヲ増ト有之候間滿十石毎ニ錢釐ヲ増シ端石ハ悉皆刎捨候儀ト相心得可然哉相伺候也

但本文ノ通ニ相成候トモ船積石改方ノ儀從前ノ通何石留ニ相心得可然哉

(指令)

書面ノ趣ハ何ノ通可相心得事

第二十三條

明治八年二月十八日千  
葉縣ヨリ内務省ニ伺

御國內廻漕御規則施行ニ付テハ離形出帆願書類彫刻并  
用紙其他右ニ屬スル入費等豫備金ヲ以仕拂置追テ別途  
受取方申立可然哉

一碇泊税取扱人給料云々當一月中相同候處船改場所役  
員給料ノ儀ハ御國內廻漕規則施行以來碇泊税并手數  
料トモ收領金高十分一ノ目的ヲ以支給方可取計旨御  
指令有之就テハ右收領金ノ内ヲ以其都度支給方取計  
殘金上納候テ可然ヤ

右相同候也

(指令)

書面ノ趣第一个條伺ノ通第二个條船改人給料並常用諸  
費ノ儀ハ一時豫備金ノ内ヨリ繰替置追テ請取方當省ニ  
可申出收入税料ノ儀ハ本年大藏省乙第十一號達ノ通リ  
取束上納候儀ト可相心得事

第二十四條

明治八年四月十七日小  
倉縣ヨリ内務省ニ伺

諸商船船底ヲ焚クカ爲メ入港イダシ候分廻漕御規則中  
碇泊税收入有無掲載無之無論無税ト相心得可然哉相同  
候也

(指令)

國內回漕規則

書面ノ趣ハ規則第七條風潮ノ不順ニヨリ入港候船同様ニ見做シ二十四時間以上滞在ノ分ハ碇泊税取立候儀ト可相心得事

第二十五條

明治八年五月千葉縣ヨリ内務省へ伺

碇泊税并免狀渡方取扱人ノ儀當四月上申候通村町用掛且平民ノ内撰舉爲取扱候處自然公務上出縣旅費給與ノ儀管内旅費御規則ニ準據シ旅費ノ等級十等ノ額ヲ以テ支給致シ可然ヤ又ハ官員トモ異リ候ニ付一般定則旅費十等ノ額ニ據リ支給可致哉  
但御許可ノ上ハ豫備金ノ内ヨリ仕拂置別途御下ケ金ノ儀上申候ヲ可然哉

前條各所取扱人ヨリ税金上納并免狀用紙受取方等其都度出縣候テハ遠キハ四五泊ニ至リ旅費モ相嵩候ニ付右ハ官費ヲ以テ遞送方取計可然哉

但右同斷

右二個條相伺候也

(指令)

書面第一條伺ノ趣ハ管内旅費定則ニ照準旅費等級十等ノ額ヲ支給可致尤昨年三月第二十九號公達ノ趣モ有之ニ付各廳ニテ適宜減少候儀ハ可爲勝手第二條伺ノ通可相心得事

但二個條共其經費ハ一時豫備金ノ内ヨリ繰替置追テ別途受取方可申出事

國內回漕規則

第二十六條

明治八年六月十八日  
明縣ヨリ内務省へ伺

本年太政官第八十六號ヲ以昨七年百二十三號廻漕規則第十七條追加ノ儀御達相成右追加中免狀及船鑑札へ定繫港名記入可致云々右免狀ハ出帆免狀ニ可有之哉別ニ船免狀可相渡儀哉廻漕規則中免狀ノ條目無之ニ付相伺候也

但港名記入ノ體裁左ノ雛形ノ通相心得可然哉且又港灣ニ無之海岸村々ニ定繫ノ船ハ乙印書式ノ通記載イ

(指令)

書面船免狀トハ西洋形船ニ限リ當省ヨリ下渡有之候免

狀ニシテ出帆免狀ニハ無之廻漕規則於テハ右船免狀並鑑札ノ内一物ヲ所持スル時ハ出入港共差支無之儀ト可相心得其他可爲伺之通事

雛形

何港定繫
何石 何國郡村
何丸 誰船
誰乘
乘組何人

何村定繫
何石 何國郡村
何丸 誰船
誰乘
乘組何人

第二十七條

明治八年六月廿二日  
田縣ヨリ内務省へ伺

國內廻漕規則

廻漕規則第十三條輸出入物品届書ハ第八號第九號書式  
並第十四條各港出入船舶届書ハ第十號書式ノ通記載可  
致ト有之候處右書式ニ仕出場ノ儀ハ譬ハ大坂港ニテ荷  
物積入出帆任向場入港候迄ハ航海中數港へ碇泊候トモ  
大坂港ヲ仕出場ト致候儀ニ候ヤ相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ伺ノ通可相心得事

第二十八條

明治八年六月十日鹿兒  
島縣ヨリ内務省へ伺

一昨七年太政官第百二十三號公布國內廻漕規則中第十  
六條ニ五十石未滿ノ小船ハ碇泊稅手数料相納ルニ不  
及但シ解漁船并湖川運用船ハ積石ノ多少ヲ問ハズ碇

泊稅手数料等相納ルニ不及ト有之右船々出入ノ節願  
届書積荷目錄等差出サスルニ不及儀ト被存是等ノ船  
々ヨリ輸送致候物品ハ輸出入物品表並出入船舶表ト  
モ記載ニ不及候哉

一 本年太政官第 三十八號 國內廻漕規則第十五條中船免  
狀船稅鑑札所持セサル者料料ノ條下へ但書十石二十  
石等ノ端數モ右ノ割合ヲ以テ取立十石未滿ノ石數ハ  
切捨ヘシ云々追加ノ旨公布相成候ニ付テハ石數ヲ以  
テ積高ヲ唱候分ハ右ノ算則ニ照準スヘシ候得共西洋  
形船ノ如キ噸數ヲ以テ唱ヘ候分ハ一噸未滿ノ端數ヲ  
切捨ヘキヤ又ハ拾噸未滿ヲ切捨ヘキ儀ニ候ヤ

一 本年御省丙第二十四號琉球藩諸船舶云々御達有之候



ニ付入津出港ノ節一切船稅差免候ト雖出帆入港願屆  
 書積荷目錄等ハ差出サセ諸免狀相渡手數料收入并船  
 免狀船鑑札及出帆免狀等所持セサル者科料其外罰則  
 等總テ國內廻漕規則ニ據リ處分候テ可然ヤ又ハ琉球  
 藩諸船ノ儀ハ別格ノ考ト看做シ出入共總テ國內廻漕  
 規則ニ照準處分スヘカラサル儀ニ候哉  
 右件々相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ第一个條伺ノ通第二个條西洋形船科料取立  
 方ノ儀ハ其量數一噸毎ニ規則ノ割合ヲ以取立端數ハ切  
 捨可申第三个條琉球藩船ノ儀ハ當省丙第貳拾四號ノ通  
 該藩ノ船ニ限リ回漕規則外ノ儀ト可相心得事

第二十九條

明治八年八月九日度  
 會縣ヨリ内務省ニ伺

第一條

一定繫船ヲ除ノ外諸商船港内ニ碇泊セハ第十五條ノ通  
 碇泊稅可相納云々譬ハ甲港ヨリ丙港ニ出帆航海途中  
 臨時食料薪水等請求ノ爲メ便宜乙港ニ寄港シ碇泊不  
 致碇ヲ降サス二三時間ニテ出帆シ或ハ甲港出帆ノ船  
 積荷有之見込ヲ以乙港ニ入津シ碇泊致サス碇ヲ降  
 儘運輸品ノ都合ニ寄積荷不致儘ニ二三時間ニテ出帆  
 スル類稅金不及上納候ヤ碇ヲ不降ト雖入津ノ上ハ稅  
 金取立可申哉

第二條

一大藏省本年乙第八十五號達府縣廳限リ取扱候諸帳簿  
 類離形碇泊税並揚陸免狀手数料收入簿中蒸氣二十噸  
 碇泊税十三錢四厘ト有之右二十噸ヲ我六石七斗二升  
 ノ割ヲ以石ニ直セハ百三十四石四斗ト相成斗數ノ  
 ヲ切捨有之碇泊税ノ儀ハ十石毎ニ積算イッシ候御規  
 則ノ處蒸氣船ニ限リ右様取立候儀ニ候ヤ相伺候也

(指令)

書面初个條甲港<sub>場</sub>仕出ヨリ丙港<sub>場</sub>仕向ヘ向航海中都合ニ因  
 リ一時乙港ヘ寄港候節ハ規則第七條ニ因リ廿四時間内  
 出帆スルモノハ碇泊税收ムルニ不及ト雖甲港<sub>場</sub>仕出  
 リ乙港<sub>場</sub>仕向ヘ入津候節ハ規則第二條ニ因リ荷物ノ有無  
 ニ不拘入出港共手數致シ税料共收入可致二个條噸數石

直シヘ掛ル税納ノ儀ハ十石未滿ノ端石ハ切捨ノ儀ト可  
 相心得事

但大藏省第八十五號達ハ取直シ可相成筈ニ付其旨可  
 相心得事

第三十條

明治八年一月十二日三  
 重縣ヨリ司法省ヘ伺

七年第百廿三號公布御國內廻漕規則第十五條諸料料每  
 百噸金若干トアル而ルハ日本形船ハ滿百石以上百石毎  
 ニ累加シテ料スル論ナキヲ第三條ニ船ノ大小ニ從ヒ船  
 税規則ノ割ヲ以テ云々トアルニ依レハ百石以下五十石  
 以上ナルモ料セサルヲ得サル乎然ラハ仍ホ每百石金五  
 圓ノ算則ニ照準シ十石ニ五錢ノ割ヲ以テ五十石ハ二圓

國內回漕規則

五十錢九十石、四圓五十錢百五十石、七圓五十錢、各其割合ニ應シ科料可申付哉相伺候也

(指令)

本年三十八號布告ノ通心得可シ

第三十一條

明治八年二月廿二日和歌山縣ヨリ内務省へ伺

回漕規則ノ内左ノ條々了解致兼候ニ付取扱相伺候也

一個條

回漕規則第一條但書ニ定繫船ニ限り碇泊税相納ムルニ不及第六條ニ税金ハ定繫船ヲ除クノ外トアリ右兩條ニ據レハ無税ニ候處第四條ニ定繫港へ歸着セハ第二條ニ照準スヘシ又第二條ニ有之乙書式ハ碇泊税并ニ手数料

取立入港差許ト掲載有之右ハ前顛ノ通定繫港ハ都テ碇泊税取立ニ不及儀ニ相心得候就テハ碇泊税不取立分ハ兼テ上木イタシ有之候第三號書式中碇泊税ト有之處朱ニテ塗抹イタシ相渡候ヲ不苦候哉

二个條

同規則中船税鑑札ト有之ハ辛未八月公布ニ相成候日本形船へ授與イタシ候鑑札ニ候哉且船免狀ハ西洋形船ニ限り大藏省ヨリ直ニ授與相成候筋ト相心得可然哉

三个條

同五條ニ免狀一通ニ付手数料ニ二錢宛可相納ト有之右ハ正副二通差出候得共正ノ分ノニ一通ニ付二錢ツ、差出サセ候儀ト相心得可然哉

四个條

各港ニ於テ一時碇泊シ二十四時間ヲ過ルモノハ第七條ノ通相心得碇泊稅爲相納爾後幾月日碇泊スト雖モ重テ税金不取立儀ト相心得可然哉

五个條

第七條諸商船風潮ノ不順ニヨリ一時入港シ二十四時以內ニ出帆候分届書式無之右ハ適宜届書爲差出可然哉

六个條

第十五條中碇泊稅算則ニ付テハ本年第十九號公布ノ趣モ有之處右ハ十石以下端石ヘモ稅額ヲ以割當收入取計且料料金ハ總テ每百石ニト有之候得共五十石積以上ハ端石迄モ其石數ニ應シ算則ヲ以割當候テ可然哉

七个條

第十六條五十石未滿ノ小船出帆免狀不相渡碇泊稅手数料不取立儀ト相心得可然哉ノ儀相伺候處御指令有之就テハ港灣出入ノ都度檢印有無ヲ檢査致候迄ニテ積荷ノ有無調査ニ不及ヤ第八號第九號輸出入表ヘモ掲載不致儀ト相心得可然哉

八个條

第一號以下諸書式紙代并摺手間料等當分常費ノ中立替置追テ一个年分調査ノ上別途御下ケノ儀上申可仕哉

九个條

第二號積荷目錄雛形ニ願人印ト有之右願人ハ荷主ノ事ニ候ヤ又船頭トモニテ積荷取經記載爲致候儀ニ候哉

十个條

積荷目録荷主ヨリ差出シ候儀ニ候ハ、タトヘハ甲ヨリ乙港ノ者ニ送致揚陸可致ノ産物乙港着船ノ上代價等示談ノ都合ニヨリ其物品ノ内五分通り揚陸残り五分又丙港ニ積廻シ候節ハ前條目録ノ内乙港揚陸ノ分ハ朱ニテ其趣記載爲致候テ可然哉

十一个條

同號中積荷目録ト記シタル上ニ揚載印ハ正副トノ割印ニシテ改所ノ印章ヲ以可捺哉

十二个條

第八號九號物品輸出入表元價記載ノ廉ニ有之就テハ積荷目録ハ代價認入サセ不申候ハテハ難見留夫々記載爲

致可然ト存候得共自製ノ物品他ニ運搬ノ分等ハ實價難見据右等ハ見込ノ代價爲申立候様可致哉且他ニ寄留或ハ付籍ノ者自分荷物ヲ初總テ賣買ニ不關物品等見込ノ代價爲申立候儀モ難得其實ヤ右等元價取調不申候テ可然哉

十三个條

五十石積以上ノ船舶下付ノ鑑札面ヨリ過積有之節罰則ハ如何相心得可然哉

十四个條

碇泊稅表ノ儀御指令ノ趣モ有之候處手數料可揚載野廓無之右ハ縣限リ適宜ニ野版彫刻候テ可然ヤ

十五个條

積荷無之船舶出帆免狀下付ノ節書式中積荷目録ノ通ト有之分朱ニテ塗抹積荷無之ト記載イタシ下付ノ儀ト相心得可然哉

十六个條

積荷目録且歸港届等下付ノ節別段手数料収入不致可然ヤ

十七个條

諸商船ハ西洋形日本形ニ不拘日本所管ノ船ハ船免狀并船稅鑑札ヲ見改噸石ニ從ヒ碇泊稅并手数料取立候筈相心得候ヘ共外國船ハ其標準トスル處難相辨如何相心得可申ヤ

十八个條

軍艦ノ儀ハ總テ回漕規則外ト相心得碇泊稅手数料等収入不致儀ト相心得可然ヤ

(指令)

第一第二兩條伺ノ通尤船免狀ハ西洋形船ニ限當省ヨリ授與ノ儀ト相心得第三四五條ハ伺ノ通第六條碇泊稅取立ノ儀ハ十石以下ノ端數ハ切捨可申且諸科料ノ儀ハ本年第三十八號公布ニ照準可取計第七條伺ノ通第八條伺ノ趣一時豫備金ノ内ヨリ繰替置キ追テ明細仕譯書ヲ以別途請取方可申出第九條願人印ト有之ハ船頭ニテ積荷取纏メ記載爲致候儀ト相心得第十條伺ノ趣ハ積荷悉皆揚陸差許候上更ニ規則第一條ノ手續ヲ以積荷目録爲差出候儀ト相心得第十一十二兩條伺ノ通第十三條

鑑札面ト實積高ト大差相生候ハ、其本管廳へ其段可相  
達第十四十五兩條伺之通第十六條積荷目錄へ可綴添書  
式并空船歸港届ノ分ハ伺ノ通第十七十八兩條伺ノ趣ハ  
廻漕規則外ノ儀ト可相心得事

第三十二條

明治八年三月二日青  
森縣ヨリ司法省へ伺

今般回漕規則御發令ヨ付テハ港掛(區戶長ノ内兼勤)申付  
在來ノ船政所及ヒ假役所於テ入港出帆免狀取扱ハ勿論  
犯則ノ者有之節ハ本人ヨリ始末書ヲ取右規則ニ照シ處  
斷爲致度候處昨七年御省日誌第百八十一號磐前縣伺犯  
則ノ者有之候得ハ始末書爲差出云々口供罰文ヲ用ユヘ  
キ旨御指令有之然ルニ當縣ノ儀廣袤數十里陸中國九戶

郡ヨリ羽後國檜原郡ノ境ニ至リ沿海凡百六十有餘里諸  
船碇泊スヘキ港灣三十个所官員逸々出張爲致候テハ不  
容易去迎本廳兩支廳(津輕郡弘前三戶郡五戶)へ呼出及處  
斷テハ上陸數里ヲ隔テ積雪人跡絶ユル沍寒中往來ノ艱  
苦憫諒ニ堪ヘス且ツ海上晚秋ヨリ中春ノ間ハ風浪殊ニ  
烈シク右吟味ノ爲數日碇泊爲致候テハ自然出帆ノ機ヲ  
失スルノミナラス難波ノ患亦甚トセス就テハ回漕規則  
ヲ犯ス者ハ本人ヨリ差出シタル始末書ニテ右港掛兼務  
戶長ヨ於テ直ニ處斷罰文下ケ渡候様相成間敷哉此段相  
伺候也

(指令)

本廳及ヒ支廳近傍ノ地ニ於テハ港掛ノ者ヨリ本人始末

書ヲ取リ之ヲ遞送セシメ速カニ指令シテ言渡サシム可  
シ本支廳ト遠隔ノ地ニ於テハ區長ノ内數人ヲ擇ニ聽認  
課兼務トシ其地ノ摸樣ニ依リ一人數港ヲ分管シ回漕規  
則ニ限リ專決セシム可シ

但區長ノ住居港ト相距ル一里以上ノ地ニ在ル者ハ  
港掛ノ者ヨリ本人始末書ヲ取リ處斷セシム可シ

第三十三條

明治八年三月十二日大坂  
裁判所ヨリ司法省ニ伺

廻漕規則第十五條中諸犯則ノ者科料金ノ儀日本形ハ每  
百石西洋形ハ每百噸ト有之候然レハ日本形百石未滿或  
ハ百石ヨリ二百石ニ至ル中間ノ零數ニ於テハ縱令犯則  
ノ者有之候トモ科料金ニ不及儀ト相心得可申哉或ハ中間

ノ零數ト雖モ其科料金十分シ十石チ一分トシ十石毎ニ  
一分ヲ増シ科料金中付可然哉譬ハ船免狀鑑札所持セサル  
者ノ科料金日本形每百石五圓トアルチ十分シ十石毎ニ金  
十錢ト定メ五十石積ハ十分ノ五乃チ二圓五十錢百三十  
石ハ五圓ト其十分ノ三乃チ一圓五十錢合セテ六圓五十  
錢ヲ科スルノ類其他此ノ弄法ヲ則トシ科料金取立可然哉  
本條每百石每百噸ノ字樣アリテ其百石以下ノ零數記載  
無之ニ付相伺候也

(指令)

本年第三十八號布告ノ通相心得可シ

第三十四條

明治八年八月八日濱  
田縣ヨリ司法省ニ伺

國內回漕規則



國內廻漕規則中鑑札貸借ノ罰則之レナク若シ犯者アラハ雙方共右規則中第十五條鑑札所持セサル者ノ科料ニ比照シ處分致シ可然哉ノ旨本年四月四日付ヲ以テ相伺候所同年六月五日付ヲ以規則中明文ナキヲ以テ罪ヲ問ハスト御指令有之然ルニ鑑札ヲ借受候者ハ自分所持ノ鑑札遺失スル者又ハ鑑札下渡無之内恣ニ航海等致スモノニテ借受ル鑑札面ノ船名姓名等其航海ノ船主ノ姓名等ニ引合ハサルハ論ヲ不俟然レハ之レヲ所持スルモ到底其効ナキモノニ付貸借ノ罪ハ不問ニ置クモ其航海者ハ仍ホ鑑札所持セサル者ト做シ處分致シ候方妥當ト相考候依テ此段再相伺候也

(指令)

伺ノ通

第三十五條

明治八年十一月十四日  
濱田縣ヨリ司法省へ伺

國內回漕規則第二條入津ノ諸船着後二十四時間内ニアツテ着港届ノ進達ヲ問屋へ囑托シ問屋ニ於テ進達ヲ等閑リ期限内ヲ過去ル者船主ハ既ニ問屋へ届書ヲ渡シ置クヲ以テ不問ニ置キ其問屋ハ違式輕重ニ問ヒ處分可及哉此段相伺候也

(指令)

届書問屋ニ托スト雖モ船主ヨリ届クヘキモノナレハ等閑ノ罰ハ船主ニ歸セサルヲ得ス仍テ第十五條ニ照シ船主ニ科料申付ヘシ

國內回漕規則

第三十六條

明治八年十一月十九日  
大坂府ヨリ内務省へ伺

今般第百六十三號國內回漕規則來十二月一日ヨリ當分  
停止ノ旨公布相成候ニ付テハ左ノ件々如何相心得可然  
哉相伺候也

第一條

一該規則當分停止ト有之候上ハ猶近々御再行可相成儀  
ニ候哉

第二條

一當港ハ管テ上申ニ及ヒ候通海口ノ土砂一日モ堀浚休  
業難致ニ付テハ該費取立方取締ノ爲メ船政所モ亦  
一日モ難廢且當港ノ儀ハ回漕規則御施行以前ヨリ船

改所設置常額費ヲ以仕拂致居候儀ニ付前々ノ通相心  
得可然哉

第三條

一本年第八十六號公布相成候定繫港記入ノ儀ハ是又停  
止候儀ト相心得可然哉

(指令)

書面ノ趣初个條追テ何分ノ御發令有之候迄ハ廢止ノ儀  
ト可相心得二箇條伺ノ通尤土砂掘浚費取立方ハ客年第  
百四十號公布ニ照準府稅ノ名義ヲ以收入ノ積稅額取調  
大藏省へ可伺出且回漕規則廢止ニ付テハ以後船政所經  
費省略等明細書ヲ以可申出三个條伺ノ通可相心得事

第三十七條

國內回漕規則

明治九年一月十三日小倉縣ヨリ内務省へ伺

昨八年第百六十三號ヲ以回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止ノ旨公布相成候ニ付テハ當縣下各港船政所ノ儀モ無檢印ノ船ノニニ關シ數个所存置候モ無用ニ屬シ可申ニ付小倉港ノニ其儘差置キ其他十一个所ノ分ハ相廢止可然哉相伺候

(指令)

書面伺ノ趣ハ船稅規則ニ照據シ積石及間數等檢査ニ付差支無之船政所ハ伺ノ通可取計事

第三十八條

明治九年二月廿九日宮城縣ヨリ内務省へ伺

當管内港稅關ノ儀ハ牡鹿郡石卷村外一个所へ從來設置

罷在候處昨八年第百六十三號公布内國回漕規則當分御停止以後不用官舎ニ屬シ居候得共右ハ當分御停止ノ儀ニ據リ其儘後日ノ需用ニ存置可然哉又ハ自今不用トモ未尙處分可然哉小學校設立所トシテ下渡ノ儀出願ノ向有之ニ付廢置相伺候也

(指令)

書面船政所ノ儀ハ船稅規則中鑑札授與等ニ差支無之上ハ都テ相廢止候儀ト可相心得事

第三十九條

明治八年五月十八日石川縣ヨリ内務省へ伺

一管内沿海諸港ノ内港口淺シ紫泊不相成沖カ、リニテ揚陸乃至一兩日碇泊ノ内暴風激浪ニテ一時爲避難最

國內回漕規則

寄ノ港或ハ他管港ニ入港候節ハ免狀等都テ所持不致  
稍風波穩靜ヲ待元ノ沖カ、リ所ニ立戻候事毎々有之  
右等ハ如何相心得可申哉

御省日誌第十號敦賀縣廻漕規則伺書第二條風潮爲避  
難揚陸ノ節積荷目錄記載方御指令ト同號中和歌山縣  
伺面第十條積荷目錄記載方御指令振ノ違ハ避難ノ港  
ニテ分荷揚陸スルト平常仕向港ニテ分荷揚陸スルト  
ノ區別ト存候得共畢竟避難港ニ於テ一二品ヲ揚陸ス  
ルモ仕向港ニ於テ分荷揚陸スルモ其節船頭等代價ノ  
都合ニヨリ揚陸スルハ同ニ儀ト存候且收税ニ至ッ  
テハ差違無之儀ニ付差向取扱方敦賀縣御指令通り取  
扱可申存候得共外ニ御旨意ニ有之候哉兩條相伺候

也

(指令)

書面第一條伺ノ趣ハ入港願書差出候ハ、免狀ハ直ニ下  
渡候儀ニ付右免狀所持ノ上ハ碇泊中一時避難ノ爲他港  
ニ入港候共避難ノ廉明瞭ニ有之候ハ、其船改所ニ於テ  
第七條ニ準據處分候儀ト可相心得  
第二條分荷物積ノ儀ハ仕向港ト避難ノ區別ヲ以テ及手  
數候儀ト相心得敦賀和歌山兩縣及指令候通り可相心得  
事

第四十條

明治八年五月二十八日  
宮崎縣ヨリ内務省ニ伺  
管下港内取締ノ儀ニ付明治六年九月租稅寮ニ相伺候處

國內回漕規則

船政所設置之儀取給料并諸經費云云  
 宮部以十月五日御省御指令相成然ル處縣下各港ト唱ルハ多  
 少ハ小灣川口等ノ類ニテ商船出入ニ僅少ニ付船政所設  
 立等可成相減以正副戸長兼務爲致候見込并一个年收入  
 金見込共別紙ノ通有之候此十分一ヲ以テ取給料諸  
 經費等可充目途難相立候ニ付何分ノ御指圖有之度且取  
 給料人等級ノ儀ハ如何相心得可然哉相伺候也  
 (指令) 書面伺ノ趣無餘儀情狀ニ付船政所ニ關スル一般ノ諸經  
 費入出港税及手數料收入高ニ不超過様可取計尤吏員等  
 級ノ儀ハ其事務ノ繁閑ニ隨ヒ實地適當ノ見込取調尙可

伺出專

第四十一條

明治八年十一月二日廣  
 島縣內務省へ伺

管下第二大區一小區楠木村住平民神部源藏儀海軍省筑  
 波艦乘組一等砲夫ノ者ニ有之然ルニ本年三月六日於同  
 省上陸入湯被差許候際其儘逃亡原籍ニ立歸候上前非  
 悔ヒ自首候ニ付同三月同省へ郵送引渡候處右途中入費  
 償却方ノ儀本年五月太政官第七十八號御達ノ趣ニ有之  
 ニ付テハ官費支給取計可然哉又ハ御達以前ノ儀ニ付同  
 省ヨリ償却可相成哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣ハ海軍省ヨリ償却相成候筈ニ付同省へ受取

方可申立事

第六節 第六章 北海道產物出港稅則並各港船改所規則

第四十二條

明治八年十一月二十日函  
館裁判處ヨリ司法省ヘ伺

北海道諸港ヨリ產物ヲ竊ニ積載セ或ハ積荷目錄外ニ積載セ各府縣管下ヘ出帆セントスルモノハ類ハ北海道諸產物出港稅則並各港船改規則第十一條ニ照シ其物品原價十分二科料取立可キ勿論ナリト雖モ北海道江差港ヨリ函館港ヘ出帆セントスルモノ、如キハ他ノ府縣管下ヨリ出帆スルモノト異ナリ因テ同第八條ニ依リ之ヲ國內積荷規則ニ徵スルニ積荷目錄外積載スルモノ、處罰方明文無之然シハ處罰ニ及ハサル論ナシト雖モ成規ニ違

背スルヲ不問ニ置候テハ取締上ニ差響キ不都合ト被存候得共原ヨリ規則上處罰ノ明文無之ニ付不問ニ置キ候テ可然哉相伺候也

(指令)

不問ニ置クヘシ

第四十三條

明治八年十一月函館裁判所ヨリ司法省ヘ伺

昨七年七月五日附ニテ第五號ヲ以テ相伺候開拓使函館支廳管下壽都江差福山三港取締規則從來一般ノ成規ニ不拘同使ニ於テ一時適宜ニ相設ケ施行致シ來候處右犯則ノ者處分方ノ儀遠隔ノ地方殊ニ峻坂險路二十里乃至三十九里餘ノ行程積雪等ノ節勾喚ノ苦情事務ノ支牒等

北海道產物出港稅則並各港船改所規則

自然有之ニ依リ右三港ノ儀ハ船政所ニ於テ直チニ處分  
 濟ノ上其都度々々當裁判所ニ届出候様取計候テ可然哉  
 ノ御指令ニ右三港取締規則土地人情適宜ニ相立居候ハ  
 伺ノ通ト有之右ハ開拓使ニ於テ設施セシ規則ニ候ハ  
 ハ地方違式註違條例ト同ク地方官ニ任メ置レ候儀ニ可  
 有之然ルニ本年二月中第十四號ヲ以テ北海道諸產物出  
 港稅則並船政所規則別段御布告相成ルニ就テハ地方違  
 式等ノ例ヲ以テ處分難相成筋ニ可有之去逆事務不辨人  
 民ノ苦情ニ於テ前段ノ次第ニ付最前御指令ニ基キ右犯  
 則ノ者限リ當分ノ内是迄ノ通り地方ニテ取扱セ候ハ、  
 上下一般之便宜ニ可有之當地ノ形狀御洞察可然御指揮  
 有之度此段相伺候也

(指令)

北海道諸產物出港稅則並船政所規則違犯ノ者ニ取締規  
 則ノ通地方ニ於テ處分ス

第四十四條

明治九年十二月十九日  
 新潟縣ニリ内務省ニ伺

昨八年第拾四號公布北海道諸產物出港稅則並各港船政  
 所規則第拾壹條ニ諸商船北海道產物ヲ竊ニ積載セ或ハ  
 積荷目錄外ニ積載セ各府縣管下ニ出帆云々ト有之候處  
 譬ハ北海道某港ニ於テ船政所檢査ヲ受ケ該地產物積  
 載出港納濟ノ上既ニ出帆免狀申受候後都合ニ依リ尙ホ  
 多少ノ物品積入レ又ハ全ク一船ノ貨物積載セ將ニ其筋  
 ノ手數ヲ請ケントスルノ際ニ至リ俄然風濤差起何分繫

北海道產物出港稅則並各港船政所規則

船難相成其儘開帆最寄船改所へ寄船ノ都合ニモ運ヒ難ク不得已各府縣管下へ直帆イタシ其旨自首候節ハ情實酌量ノ上第拾條但書ニ依リ出港稅徵收候迄ニテ科料ノ廉ハ不問ニ措キ可然哉尤當港ニ於テ陸揚ケノ船舶有之節北海道船政所又ハ分署等ヨリ積荷目錄ニ照シ若シ過積等ヨレアラハ拔荷ト認メ科料金徵收ハ勿論ニ候得共該產物出港稅未納品積載ノ船舶入港自首候節取扱方ノ儀規則中明文無之ニ付相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣ハ暴風等ノ難ニ依リ不得已各府縣下へ入港ノ直ニ其旨届出候ハ稅則第拾條但書ニ依リ出港稅ノ徵收可致若又北海道ニ於テ竊ニ貨物積載其筋ノ手數

ヲ經テ故意出港候ハ勿論暴風等ノ難ニ依ルト雖モ各府縣下へ入港ノ節直ニ其筋ニ届出テ販賣等ノ手續取計候後及露顯候類ハ總テ拔荷ト看做シ同條本文ニ依リ科料可取立儀ト可相心得事

第七章 船稅規則

第四十五條

明治八年八月十一日兵庫縣ヨリ內務省へ伺

港内解船客船取締ノ儀御省丙第三十六號ヲ以テ御達有之ニ付右ハ脫稅取締ニ關スル部分モ地方へ御委任ノ儀ニ候哉云々相伺候處港内解及客船營業ノ者取締事務地方官ニテ取扱候儀ニ付右ニ屬スル號旗鑑札授與等ノ方法適宜施行致候儀ニテ海關脫稅等ノ取締筋ハ從前ノ通

船稅規則



税關ニ於テ擔任候儀ト可相心得旨御指令有之就テハ鑑  
札下付等地方ニ屬スル取締ハ従前適宜ノ方法取設施行  
致居候儀ニ付今般ノ御達ニ因リ別ニ規則等取設不申號  
旗號燈授與ノ儀ニ至ク脱税取締ノ一部ニテ税關ニ於テ  
可取扱筋ニ有之候間爲念及上申置候也

(指令)

書面港内舩及客船取締ノ儀ハ海關脱税取締ト右營業上  
取締トノ區別ハ有之候得共畢竟密商脱税豫防ノ爲メ規  
則取設候儀ニ付地方税關兩廳協議ノ上適宜ノ方法不致  
テハ不都合ノ旨大藏省ニ以商議ノ趣モ有之候條規則新  
設ノ有無ニ關セズ篤ト税關協議ノ上將來ノ取締相立候  
様可取計事

第四十六條

明治八年三月二十八日  
度明會縣ヨリ司法省ヘ伺

昨明治七年太政官第二十一號ヲ以舩漁船并海川小廻船  
等税御規則御布告相成候處當縣ノ儀ハ海川通路數ク所  
有之隨テ舩數モ夥多ニ付右御規則ノ通一々燒印ヲ捺シ  
候テハ管々手數ノミナラス所持主其營業ノ障碍トモ可  
相成ニ付大藏省ヘ同濟ノ上夫々燒印有之鑑札相渡每舩  
釘付ニ爲致置候處右鑑札遺失誤毀スル者有之節ハ改定  
律例第一百一條ニ依リ贖ヲ聽シ其水火賊難等ニ罹リ顯跡  
アルモノハ其罰ヲ科セスシテ可然哉別紙大藏省御指令  
書寫之略相添此段相伺候也

(指令)

船税規則

伺乏通

第四十七條

明治九年四月十四日神奈川縣ニリ内務省へ伺

西洋形蒸氣帆前船噸數改方ノ儀ハ辛未十二月中大藏省ヨリ被達候法則ニ一重甲板ノ船ハ甲板上最大ノ長サ二重甲板ノ船ハ甲板上ト龍骨上トノ長サヲ測リ其半高ノ長サニ甲板下ニテ船ノ内部最大ノ幅ト甲板上ヨリ船底ノ深サヲ乘シ合シタル數ノ三八〇ノ數ヲ以テ割リテ總噸數ヲ得ル併シ是ハ帆前船ヨテ用ル仕法ヨテ蒸氣船ハ右ノ仕法ヲ以テ測リタル噸數ノ内ヨリ器械及石炭室ノ積ヲ除カンタメ〇六〇ノ分數ヲ乘シ噸數ヲ得ルト有之ニ照依シ検査候處舊船籍へ記載アル噸數トハ多數ノ差異

ヲ生シ候ニ付西洋各國ニテ積石噸數改方ノ儀其技術巧者ノ外國人へ尋問候處總テ艦船新規製造ノ節ハ離形ニテ步詰立法平坪ヲ量リ置キ器械及石炭室ノ坪數ヲ除キ長間數ヲ乘シ四十立法ニテ割リ噸數ヲ定メ而シテ右ノ何百倍ノ筭當ヲ定メ船體組合候儀ニ有之候得ハ合船落式ノ上實物ニ就テ検査スレハ必ス多少ノ差異ヲ生シ候道理ニ有之故ニ歐洲各國ニテ船ヲ賣買スルニハ必ス最初合船スル處ノ政府ニテ下與スル噸數ヲ永存セシメ候儀ニ有之趣右ハ噸數差異ヲ生シ概通減噸相成候ト大藏省ノ法則ヲ以テ檢シタル噸數ニ引直シ可申哉尤右規則中ニモ大體ノ標準云々ノ明文モ有之候得ハ舊船籍ニ記載スル噸數ヲ存在セシメ可申哉

船稅規則

(指令)

書面西洋形船噸數改方ノ儀ハ當今一般船舶ノ測度方法  
取調中ニ付追テ御發令相成候迄ハ其本船製造ノ節測度  
ノ噸數舊船籍等ニ確証有之分ハ右ヲ以本船ノ噸數ト相  
定置可申事

第四十八條

明治九年五月十六日東  
京府ニ内務省ニ伺

西洋形船噸數改方ノ儀明治四年十月中大藏省ニリ達ノ  
方法ニ據リ檢査致來候處本月一日附神奈川縣伺ニ御指  
令ニ當今御取調中ニ付御發令相成候迄ハ本船製造ノ節  
測度ノ噸數舊船籍等ニ確証有之分ヲ本船ノ噸數ト定置  
可申旨有之就テハ爾來檢査ノ船ハ一般ニ右御指令ノ趣

遵守可致哉且既往檢査濟ノ分モ船免狀噸數ヲ以鑑札  
書替下附可致哉自然其儘ニテ噸數稅額共區々ニ成行  
不都合ノ儀ト存候間併テ處分ノ儀相伺候也

(指令)

書面ノ趣ハ現今取調中ニ有之候條本船製造ノ節測度ノ  
噸數舊船籍等ニ確証有之分ニ限リ右ヲ以本船ノ噸數ト  
相定其確証無之船ハ明治四年十月大藏省達ニ照據シ檢  
査候儀ト可相心得尤既往檢査濟ノ分ハ船免狀噸數ヲ以  
鑑札書換ニ不及候條從前ノ通リ據置可申事

第八章 車稅規則

第四十九條

明治八年五月愛知  
縣ニ内務省ニ伺

車稅規則

一從前馬車人力車等規則ニ照準正税ノ外賦金取立來候  
 處本年太政官第二十七號公布中右廉無之就テハ自今  
 適宜賦課不相成儀ニ候哉又ハ從前ノ通取立不苦候也  
 一太政官第二十三號ヲ以テ被廢止候雜税目中ノ分ト雖  
 道路橋梁小學病院運卒費等ニ充テ或ハ其職業取締  
 筋ニ付縣限賦課方法相定不苦候哉  
 右兩條相伺候也

(指令)

書面初个條從前馬車人力車等諸税規則ノ儀ハ昨年十二  
 月限被相廢候儀ニ付適宜増賦可致筋ニ無之二个條ハ即  
 今詮議中ニ付追テ何分ヲ指揮可及事

第五十條

明治八年十二月十四日  
 度會縣ヨリ司法省ヘ伺

本年第二十七號御布告車税規則第六則ニ諸車類無届ニ  
 テ營業スル手又ハ使用スル者其脱税高ノ五倍科料云々  
 有之其脱税ト云ハ譬ハ六月以前ニ車ヲ新調シ無届ニ  
 テ營業スル事七月ニ至テ顯ハルレハ半年分ノ税ヲ脱ス  
 ルモノトシ若シ翌年一月ニ及ンテ顯ルレハ一个年ノ脱  
 税トシテ加算スヘキ手又ハ六月中ニ顯ルレハ半年ノ脱  
 税トシ七月ニ及フハ一年トシ翌年一月ニ及フハ一年半  
 ノ脱税トスル手或ハ又半年ノ區別ナシ犯ス日數ノ多寡  
 ニ拘ハテス一年ノ脱税トシテ科スヘキ手然ルキハ十二  
 月二十日ニ車ヲ新調シ無届營業スルト翌一月十日ニ顯  
 シハ犯ス日數纔カニ二十有餘日間ニシテ二个年ノ脱

車税規則

稅五倍ヲ科スルニ至ル如斯ハ其當ヲ得サルニ似タリ於  
是御布告ニ其脫稅云々下アルニ於テ年稅ヲ日數三百六十五  
日閏年ハ一日ヲ加算スニ割所犯ノ日數脫稅ノ金員ニ五  
倍ヲ科スヘキ儀ニモ可有之手相伺候也

(指令)

六月以前七月以後ノ區別ヲ以テ半年分ノ脫稅ヲナシ六  
月ヨリ七月ニ至リ十二月ヨリ一月ニ至ルハ一年分ノ脫  
稅トナシ其五倍ヲ科スヘシ

第五十一條

明治八年一月二十三日  
同縣ヨリ司法省ヘ伺  
諸職業並ニ車類等府縣ニ於テ賦金ヲ課スル爲メ該廳限  
リ渡シ置鑑札ヲ遺失スル者アラハ如何處分可致乎奉伺

候也

(指令)

改定律例第一百一條ニ問擬ニ贖ヲ聽ル

第五十二條

明治九年二月十日警  
視廳ヨリ司法省ヘ伺

無檢印ノ入力車ニ乘リ通行候者有之ヲ巡查見認メ取糺  
候處伏見宮家令藤井希璞ヲ差者ニテ昨八年中有栖川宮  
家勤仕中同家ノ車ヲ借受其儘相用來段申立候素ヨリ皇  
族自用ノ車ハ無檢印タルヘク候得共其家令家扶等之レ  
ニ乗用スヘキ儀ハ無之筈ニ付犯則ス者ト見做シ處分致  
シ可然哉相伺候也

(指令)

車稅規則

皇族自用ノ車ヲ人ニ貸與フルノ禁例ナケレハ其借ル者  
一 概ニ犯則者ト見做シ難シ尤内實賞受家令ノ自用ニ致  
ス等ノ情狀アレハ相當ノ處分ニ可及事

第五十三條

明治八年五月八日大藏  
省ヨリ司法省へ廻リ

別紙ヲ通リ熊谷縣ヨリ當省宛申出候得共右ハ全罰法上

ノ儀ニ付御省擔當ノ件ト存候條往復規程第十一條ニ依  
リ及御廻送候也

紙別 明治八年四月  
熊谷縣ヨリ伺

一 本年三月中庶第四十號ヲ以テ本縣限リ取立候賦金ノ  
儀ニ付先般相伺置候内各車檢印料ノ儀道路橋梁修繕  
警察事務等ノ費用ニ充候ヲメ壹車ニ付檢印料金十錢

一 ツ、取立候處車稅御規則中諸車類無届ニテ營業スル  
者等ハ其稅高ノ五倍料料タルヘシト有之然レ所荷  
積車ノ内耕作一途ニ相用候免稅ノ車無届ニテ營業ス  
ル候者ハ御規則罰料ニ擬シ右檢印料金十錢ノ五倍  
ノ料ニ可然哉此段相伺候也

(指令)

有無ノ見込アル者ハ其地ノ裁判所ニ送付シ裁判官ノ處  
分ニ任セ可然事

第九章 烟草稅則

第五十四條

明治九年二月二十二日  
飾磨縣ヨリ司法省へ伺

第一條 明治八年第三百五號御布告烟草印紙貼用規則

烟草規則

第三則第四條改正烟草印紙貼用方云々全面ノ中心ヨリ  
 端ニカケ賞印或ハ仕切印ヲ押ス可シト有之即剝取再用  
 者罰則無之縱令賞印仕切印ヲ以テ押印セサルモ處罰  
 及カス可然哉

第二條賞罰例第七條烟草印紙ヲ用ユ可キ製造烟草  
 印紙ヲ貼用セス自用ノ人へ賣出ス者云々トアリ買取者  
 ノ罰則見ヘス自用ノ爲メ無印紙製造烟草ヲ買取スルモ  
 罪無之候哉

第三條爰ニ御賣營業鑑札ヲ受ケス又規則ノ印紙ヲ貼  
 用セズ製造烟草若干右鑑札所持ノ者へ賣買スルニ他人  
 之ヲ知見シ告訴セント欲シ即チ賣買者ヲ詰問スルニ果

然リ其犯則人云フ已ニ規則ヲ犯スト雖モ現物尙存  
 在今直ニ取締シ更ニ鑑札ヲ受ケ印紙ヲ貼附シ然後賣買  
 者ヲ可シト是ニ於テ先キノ賣買ヲ解キタルニ犯人ハ  
 則之ヲ告訴ス官之ヲ審問スルニ果シテ前顯ノ通リタラ  
 ば賣買者ニ於テ一旦犯則ヲナシ他人告發ヲ經ルト雖モ  
 已ニ其非ヲ覺リ規則ニ循フテ以テ無罪トナシ告訴人へ  
 賞罪例第十二條ノ賞金ヲ給與シ難キ手又ハ他ノ耳目ニ  
 觸ル詰問ニ係ル上ハ仍ホ犯則ヲ以テ論シ告訴人へハ例  
 正ニ依リ賞金給與シ可然哉相伺候也

(指令)

第三條 布令ニ違フヲ以テ情ヲ量リ違令輕重ニ問ヒ贖

聽ス

第三條 伺ノ通

第三條 未ダ官ニ發セズト雖モ一旦詰問ヲ受ル上ハ罰

例ニ照シ處分ス可シ

第五十五條

明治九年三月十日三  
重縣ヨリ司法省ヘ伺

煙草稅則第一則第七條營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニ  
テ失却候節ハ其旨管轄廳ヘ届出新規鑑札申受可キ事ト  
有之然ルニ酒造絞油商船生糸牛馬鑑札ヲ遺失毀損スル  
者ハ其規則中別ニ科料金ノ目ヲ掲グ之ニ因テ是ヲ視ル  
ルハ煙草鑑札ニ於ルハ過誤遺失毀損スルモ其罰則ニ明  
文ヲキチ以テ處罰ニ及ハサル乎前條其罰則ニ明文掲載  
アルト無シト雖モ其省及ヒ縣ノ印アル鑑札多ク其營

業ノ何タルニ論ナク律例第一百六條ニ照依セザル可ク  
ル儀ニハ之レ有ル間敷哉  
當但シ其遺失スルモ水火盜難ニ罹ルハ實跡明瞭ナルモ  
對於テハ固ヨリ論セザル可キ乎相伺候也

(指令)

鑑札ヲ遺失毀毀スル者ハ手数料ヲ納メシムルノミニテ  
處罰ニ及ハス

第五十六條

明治十年九月三日和歌  
山縣ヨリ司法省ヘ伺

煙草稅則中第一則追加第十條ニ出賣鑑札ハ營業商人一  
名一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡ト有之候付テハ願出  
任セ數枚相渡候テモ不苦儀ニ候得共出賣人ノ際限無之



第三則追加第十三條貸借の罰は罹ルモノ可相生モ  
 難計依テ營業人ノ一戸籍ニアルモノ及ヒ雇人ニ限リ付  
 與致來候處尙實際不取締リ難有之候ニ付別紙寫ノ通大  
 藏省ニ伺出候處七月二十六日朱書ノ通指令(略)相成候然  
 シ本年二月御省甲第一號御布達ニ基キ一个月以上ノ期  
 限ヲ定メタルモノ、外期限ヲ定メサル日雇人等ヲシテ  
 出賣モシムルモノ有之トキハ都テ貸借ヲ以テ論シ處分  
 可致哉將亦雇人ト唱フルモノ、中平日ハ自宅ニアツテ  
 恆産ヲ營ミ時トシテハ營業商人ノ招ニ應シ出賣シテ相  
 當ノ賃錢ヲ受クルモノアリ或ハ營業家ノ製造煙草ヲシ  
 テ營ムハ壹斤ニ付幾錢ニ代價ヲ定メ出賣鑑札ト併セテ  
 借受ケ是ヲ各地ニ出賣シ其實立代金高ノ内營家ニ元價

價ニ剩餘ナルモノヲ出賣シ口錢トシテ所得ニナル者  
 ノ種類々有之是等ハ事發覺スルニ方リテハ雙方其雇主  
 雇人ノ旨ヲ主スト雖モ決シテ公認スヘキ雇人ニ無之儀  
 存候然ラハ一般雇人ト公認スヘキモノハ雇主雇人ノ  
 間ニ於テ其支給スル金數雙方相許諾シ一月以上期限ヲ  
 定メ雇使スルノ証左アル者ニ限リ其雇人ノ名義ヲ以テ  
 出賣セシムルノ權利ヲ得ルモノトシ其它前述ノ通り一  
 時種々雇人ノ名義ヲ主唱スルモ其實私便暗利ヲ計リ候  
 者ニテ純手アル雇人ニアラサルモノト見認ルルハ尙審  
 察ニ上事實相違無之候ハ、渾テ右稅則中第三則第十三  
 條ニ準シ處分ニ及候テ可然哉

(指令)

何之通

第十章 證券印稅規則

第五十七條

明治七年十一月十八日  
愛知縣司法省令

証券印紙貼用ノ儀地所建家其他公債証券等讓與証書ノ  
第一類賣渡証文ハ第二類印紙貼用可致御定規ニ有之候  
右讓與トハ無代價ノ者ニテ縱令証書中讓與ノ文字有之  
候共多少代價取極有之分ハ素ヨリ賣渡ニ付第二類印紙  
貼用爲致候ヲ可然哉  
借用金証文第二類印紙貼用有之右証文期月ニ返濟遲滯  
ニ及ヒ更ニ返濟延期ヲ約スル証文ハ金錢約定証文ニ付  
縱令其約十數度ニ及フモ一々第二類印紙貼用爲致候ヲ

可然哉

第二類印紙貼用ノ証文ヲ引當ニ致シ添証文ヲ以テ金穀  
借用致シ候節右添証文ハ借用金証文ニ付縱令引當ノ證  
文ニ第二類印紙貼用有之候トモ更ニ第二類印紙貼用爲  
致候ヲ可然哉右相侖候也

(指令)

三條トモ侖ノ通

第五十八條

明治七年十二月九日茨城  
裁判所司法省令

本年太政官第八十一號御布告証券印紙規則改正第五則  
第十二條ニ前條ニ掲テ証書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲  
スル節ハ請取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上

証券印稅規則

九五

取揚裁判可致ト有之右ハ第十一條規則ノ通過料金差  
出候後ノ者ニ限リ候歟又ハ未タ處罰ヲ不經ト雖モ証書  
購取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用認印ノ上訴出候節ハ取  
揚及裁判犯則ノ廉斷獄課ニ於テ可致處分候哉此段相  
違正伺候也

(指令)

証券印稅規則第五則第十二條ハ第十一條規則ノ通過料  
金差出候後ノ者ニ限ル可シ

文但於其發覺前証書受取主ニ於テ相當ノ印紙貼用認印  
請取主上訴出候モノハ証書渡主ノ斷獄課ニ於テ無印紙  
罰之罰科料額シ

第五十九條

明治七年十二月十四日  
同所ヨリ司法省へ伺

爰ニ甲ナル者所有地ヲ以テ乙ニ賣却スルニ仍ホ期限ヲ  
定メ其期限中甲金子調達ヲ得テ右地買戻スルハ無異儀  
可賣戻旨乙ヨリ右地代金百九十圓ノ高書載候約定証書  
差入候節印稅規則熟知セサルヨリ右證書印紙貼用セス  
之ヲ無印紙証書異紙ニ認メ相渡ス者アリ是ハ證券印稅  
規則第四則第二條證書類ニ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ  
脫稅高ノ二十倍其証書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ十倍過  
料タルヘキ事トアルニ照シ前約定証書ハ第二類ノ証書  
ニ全ク脫稅スル者ト爲シ過料申付可然哉或ハ實ニ無印  
紙界紙丈ケノ稅ハ差出居候者ニ付印紙貼用不足者ノ例  
ニ準シ第四則第一條界紙定價平均五厘ノ高ヲ除去シ其

證券印稅規則

餘不足ノ税ヨリ倍算過料可申付裁規則正條ナク決シ兼  
候條此段相伺候也

(指令)

印紙貼用不足者ノ例ニ照準シ處分スヘシ

第六十條

明治七年十二月八日三  
藩縣ヨリ司法省ヘ伺

本年七月太政官第八十一號公布ニ相成御改正證券印紙  
御規則中第四則七條印紙不足ニ貼用セシモノ其減稅高  
拾倍過料スルヘキ御規則ノ所不足ノ印紙貼用證書受取  
候モノ過料ノ儀御規則中不相見右ハ御規則ニ無之上ハ  
無罪ト相心得可然哉相伺候也

(指令)

伺ノ通

第六十一條

明治七年十一月十九日  
若松縣ヨリ司法省ヘ伺

證券印稅第五則第十二條前條ニ掲クル證書ヲ以テ公裁  
ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用  
シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致ト有之ハ一旦違則ノ廉  
ヲ以テ罰金ヲ科シタル後公裁ヲ仰カントスル儀ニ可有  
之歟然レハ證書受取主ニ於テ規則ニ觸レタル證書ヲ受  
取置後日違則ノ儀ヲ覺知シ相當ノ印紙ヲ自ラ貼用シ自  
ラ調印ノ上訴出ルキハ一旦規則ニ觸レタル證書ヲ受取  
ト雖モ印紙ヲ貼用スルニ付處罰ニ不及渡主ノニ規則ニ  
照シ罰金申付可然歟此段相伺候也

證券印稅規則

(指令)

伺ノ通

第六十二條

明治八年一月八日新  
川縣ヨリ司法省へ伺

昨年御省日誌第九十四號新治縣伺ノ御指令ニハ人民相互ノ委任狀ハ界紙ヲ用フルニ不及ト有之又同百九十號大分縣伺ノ御指令ニハ界紙ヲ用フ可シト有之右兩岐ノ御指令孰レニ據リ可然哉相伺候也

(指令)

明治七年第三百三十七號御布告ノ通相心得可ク候事

第六十三條

明治七年十二月十九日  
石川縣ヨリ司法省へ伺

爰ニ証券印紙ヲ不足ニ貼用ノ證書ヲ授受セシ者アリ御規則中第四則第七條ニ照シ渡主ノニ減稅高十倍ノ過料可申付處當該官吏失錯ニ係リ脫稅ノ者ト看認メ渡主ハ十倍ノ過料ト誤テ擬定シ其反對シタル過料既ニ宣告相成候後其官吏自ラ檢舉スル時ハ如何處置可然哉相伺候也  
但本文過剩ニ取立候金ハ還却シ其不足ノ科金ハ律上輕キニ失スル者ト看做シ更ニ取立ルニ不及候哉

(指令)

諸罰則處斷ノ失出入ハ其罪ヲ問ハス

但書伺ノ通

第六十四條

明治七年十二月三日大坂  
裁判所ヨリ司法省へ伺

証券印稅規則

九月一日前後に不同民法上ニ發覺セタル印紙犯則ノ者  
ハ總テ刑法ニ付シ處斷可及乎

印稅規則第五則十二條印稅規則ニ相觸候證書ヲ以テ公  
裁ヲ仰ガントスル節ハ受取主ニ於テ自ラ相當ノ印紙ヲ

貼用シ裁判ヲ乞フ事ヲ許サレタリ右ハ九月一日以後ノ  
證書而已チ云乎八月三十日以前ノ證書ヨテモ前文ノ如

ク自ラ貼用ノ上訴出ル節ハ採上及裁判可然哉  
但解訟ノ後ハ犯則ノ廉刑法ニ付シ處斷可致事ト相心

得可然乎  
犯則ノ言渡ヲ受ケシト受サレトチ不問證書受取主ニ於

テ貼シタル印紙ノ相當ナシハ採上裁判可及乎但第二條  
但シ書ノ通相心得可然乎相伺候也

(指令)

第一條 總テ新舊規則ニ依リ斷獄課ニテ處分ス可シ

第二條 七年九月一日以後ノ證書ニミテ心得可シ

但犯則ノ廉ハ其發露ノ時直ニ斷獄課ニテ處分ス可シ

第三條 同ノ通

但第二條但書指令ノ通

第六十五條

明治七年十二月廿三日  
白川縣ヨリ司法省ヘ伺

証券印稅規則第四則第一條証券界紙相用フヘキ証書類

ニ証券界紙ヲ用ヒサル者ハ脫稅三種平均五厘ノ貳拾倍

受取タル者ハ拾倍ノ過料トアリ又同第二條ニ第一二三

類ノ証書類ノ証書類ニ印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅ノ二

證券印稅規則

十倍其證書ヲ受取タル者ハ十倍ノ過料ト有之假令ハ証書渡主五名乃至十名一紙ノ證書一冊ノ帳簿へ連印セシ者ハ二十倍ノ過料金ヲ右數名ニ割合差出サセ其證書受取主モ亦一紙ノ證書へ數名ナレハ十倍ノ過料金ヲ其數名ニ割合差出サセ可然哉果シテ然レハ右證書へ請人証人或ハ與書等致シ候數名有之節モ亦二十五圓ノ範圍内相當ト思量スル過料金ヲ數名ニ割リ合可爲差出哉但シ保証人ニアラス朋友隣伍ノ者交宜ノ譯ヲ以テ連名加印スル者多分有之右ハ其肩書等ニ保証ノ文字ナシト雖モ之ヲ與書者ト見做シ仍ホ二十五圓以内ノ過料金可申付哉米穀並諸品賣買約定證書金高十圓以上ハ利足ノ有無ニ

論ナシ即チ二類ノ證書ニ有之候處其米穀並諸品賣買ノ時未タ現品授受致サス來ル何月限ニ現品引渡スヘク尤代價ハ其時ノ相場合ニ寄算計可致旨ヲ記載シタル證書ハ金高記載ナキ約定證書ニ付界紙ヲ用フヘキ所其當初現品ハ渡サレレ其價ハ何程ト双方口上ヨテ結約シ証書ニ掲載セサル者有之右ハ証書面ニ依リ矢張金高記載無之約定證書ト定メ可然哉左スレハ印稅ヲ免レシ爲メ兎角代價ハ口約束ニ致シ證書ニ掲載セサルノ弊ヲ生セシ手如何相心得可申哉但本條米穀賣買ノ約ヲ爲シ未タ現品ハ受取サレトモ其數三百俵ヲ買取セント約シ其證書假令ハ本行ニ米三百俵ト記シ其但書ニ一俵ニ付三圓ト記載アレハ即

千金高アル証書ナレトモ一俵ノ代價マテ記シアルハ  
 其三圓ヲ証書ノ全金數ト見做シ候哉又ハ三圓ト記シ  
 アル上ハ三百俵ノ代價ハ推テ九百圓ナルヲ知ルニ因  
 リ其九百圓ノ相當印紙九十錢ヲ貼用致スヘキ哉  
 假令ハ二類ノ証書金高十萬圓ナルニ印紙ヲ貼用セサル  
 本人ハ第四則第二條ニ依リ脱税高百圓ノ廿倍二千圓ノ  
 過料相當ノ所其保証人ニ至テハ僅カ二十五圓以内ノ過  
 料外難科候ニ付範圍内假リニ二十圓ヲ適宜ノ過料金ト  
 爲シ將又右十萬圓ノ証書ニ印紙ハ貼用アレバ調印セサ  
 ル本人ハ第四則第八條ニ依リ三十圓以内ノ過料ニ付範  
 圍内假リニ二十五圓ヲ適宜ノ過料ト爲シ其保証人ハ二  
 十五圓ノ範圍内假リニ二十圓ヲ適宜ノ過料ト爲セハ本

人及ヒ保証者ノ間其罰金ノ差異此レハ僅カニ五圓彼レ  
 ハ本人二千圓保証人二十圓即チ一千九百八十圓ノ差異  
 チ生シ其懸隔實ニ天淵ノ別アリ固ヨリ範圍内適宜ノ處  
 分ナレハ強チ右譬チ比例致シ候譯ニテ無之候得共総シ  
 テ印紙ヲ貼用セサルハ脱税ノ責重ケレ共貼用ノ調印セ  
 サルハ情狀稍々輕シ故ニ其罰則ニ於テ貼用セサルハ脱  
 税二十倍ノ過料只調印セサルノミナレハ金高幾百萬圓  
 ニ至ルト雖モ過料金三十圓以内ニ止ル然ニ獨リ其保証  
 人ニ至テハ同二十五圓以内ノ罰則ニテハ事理妥當ナラ  
 ス因テ印紙ヲ貼用セサル保証人ニ限リ脱税高幾倍ノ過  
 料金ヲ科シ候様有之度右相伺候也

(指令)

証券印税規則



第一條 何ノ通

但書朋友隣伍ノ者連名加印スルハ其事ヲ証スル爲メ  
ニスルヲ以テ則証人トス

第二條 米穀並ニ諸品ヲ賣買スルニ即時其品ヲ授受セ

ズ別ニ引渡ノ期限ヲ立テ代價ハ其時ノ相場合ニ寄ル

可キノ約定書ト雖モ米穀ハ石數ヲ以テ定ムルニ依リ

第二類中ノ者トス其他ノ諸品ハ金高記載ナキ約定証

書ニ入ル可シ代價ヲ口上ニテ約シ証書面金高ヲ記載

セサル者モ亦同シ

但書米三百俵云々ハ石數ニ依テ定ムルモノコテ第

二類ニ入ル可シ

第三條 証人ヲ責ルル式ノ如クテサレ証書ニ注意セ

セサルコアリ故ニ本人犯則ノ輕重ニ拘ラヌ一例ヲ以テ  
之ヲ推シ只其罰金範圍内ニ於テ輕重ヲ定ルノミトス

第六十六條

明治七年十一月廿七日  
新川縣司法省へ伺

今般証券印紙改正規則御發行ニ就テハ諸帳簿ノ内假令

ハ最初千圓ト見積相當ノ印紙貼用ノ上取引致候内誤テ

千百圓附込他ヨリ發覺前心付自首候節ハ其罪ヲ免シ而

シテ過剰金百圓ハ更ニ新帳ノ初丁へ掲ケ其譯記載シ新

規見積ノ内へ結込候テ可然哉又過剰金相當ノ印紙ヲ本

帳初丁へ増貼爲致不苦哉

前條ノ如ク假令ハ最初千圓限リト見積ノ帳簿誤テ千九

十圓附込未ク千百圓ニ不滿内ハ見積金高ヨリ過剰ニ候

へ脱税トモ難申ニ付他ヨリ登覺前心付更ニ新帳ニ改候共又ハ他ヨリ發覺候トモ總テ犯則ト不見做可然哉右相伺候也

(指令)

第一條 伺ノ通

第二條 自首ニ非サルモノハ九十圓附込ノ廉チ以テ罰ス可ク候事

第六十七條

明治七年十二月廿八日  
教賀縣ヨリ司法省へ伺

一旦相用ヒ消印セシ証券五錢印紙ヲ剝取リ之ヲ再用スル者アリ其情ヲ推スニ僅ニ五錢ノ税ニ脱カレ且ツ手數ヲ省カント欲スル耳有犯則証券印紙規則御改正前ニ

ルチ以テ舊規則增加第九條中第二項ニ依リ處分ス可キ者也然ルニ罪狀印紙ヲ贗造シ及ヒ一旦消印セシ印紙ヲ剝取リ消印ヲ洗滅シ販賣スル者ト同ク偽造官印律ニ依リ處分スルハ頗ル苛酷ニ涉ルコ似タリ因テ幸ヒ御改正新規則ニ至テ如斯者ハ六拾圓以下ノ過料ニ止マルナレハ改定律例御頒布ノ後ハ犯罪其以前ニ係ルト雖モ改定律例ノ罪名新律綱領ヨリ輕キハ改定律例ニ依テ科スルノ御主意ヲ採リ該犯モ亦御改正規則ニ照シ六拾圓以下ノ罰金ヲ科シ可然哉右奉伺候也

(指令)

伺ノ通

但シ諸規則違犯ノ者處分ノ儀ハ依新頒律ノ例ヲ用ヒ

證券印稅規則

オト雖モ本文伺ノ如キハ本律ニ問擬スヘキモノニ付  
改正規則ニ準據シ苦シカラサル事

第六十八條

明治八年一月十三日愛  
知縣ヨリ司法省ヘ伺

證券罰則中第一類二類ノ帳簿ニテ七年九月一日前ノ規  
則ヲ犯シ帳簿餘白ヘ過剩ノ金員ヲ記載シ取引ノ未當今  
ニ至リ非ヲ悔ヒ出首スル者勘カラズ右ハ科料ヲ免レ過  
剩ノ金員ハ更ニ新規則ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼セシメ可  
申哉又ハ舊規則ニ依リ納稅セシム可キ哉相伺候也  
(指令)

第六十九條

舊規則ニ照シ納稅セシムルルニ止ム

明治八年一月八日大坂  
裁判所ヨリ司法省ヘ伺

本省日誌七年第九十一號京都府ヨリ証券印紙規則第  
一則第一二條ヲ引キ後日故障差起リ候節取揚裁判不相  
成ノミニテ別段擧ハ無之哉又ハ脫稅犯則ヲ以テ論ス可  
キ哉ト伺候處罪ノ論ス可キナシト御指令有之候就テハ  
右ヲ援引致スハ勿論ノ儀ニ候ヘ共追テ印紙ヲ貼シ調印  
シ上願立ル者ハ取上ケ裁判及ヒ前キコ印紙不貼用ノ廉  
ヲ犯則ニ照シ處分可致儀ニ候哉將又人民財產受授約定  
證書ニ不足印紙ヲ貼シ置後日出訴及ヒ候節審明スルニ  
原被共ニ頑愚ニシテ未タ印稅規則ニ慣熟セサルヨリ誤  
テ第二類金高ニ應スルノ印紙ヲ貼ス可キニ第一類印紙  
ヲ貼スル等ツ者モ仍ホ裁判致サス訴狀取下ケ前項御指

證券印稅規則

令ニ照準シ罪ヲ論ス可キナシト相心得可然哉此段相伺候也

(指令)

京都府ニ伺ハ全ク証書ヲ用ヒサル者ニ係ル故ニ罪ノ論ス可キナシ証書アリテ印紙ヲ貼用セサル者ハ取揚ケ裁判セスト雖モ其種類ニ依リ罰ヲ科ス可シ追テ其証書ヲ第五則第十二條ノ手續ヲ以テ裁判ヲ乞フ者ハ取揚ケ可

印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ無印紙ノ証書ト同視セス故ニ取揚ケ裁判ス可シト雖モ其減税ノ罰ハ第四則第七條ニ照シ處分ス可シ

第七十條

明治八年一月四日山形縣ヨリ司法省ヘ伺

人民財産ノ受授并交際上相用候諸証書帳簿類ハ印紙貼用ノ上實印ヲ以テ調印可致御規則ニ候處明治六年七月五日太政官第二百三十九號御布告但書ノ趣ト証券印稅舊御規則ノ趣意ト相抵觸スルノ旨ヲ以テ滋賀縣ヨリ御省ヘ相伺候處明治七年六月十九日商法上ノ證書ニシテ商用印ヲ用フルル者ハ固ヨリ其商用印ヲ以テ消印スヘキ旨御指令第七年第二百三十三號十六丁見合セ相成候ニ付テハ同年九月一日ヨリ印稅御規則御更正ニ相成候ト雖モ前書太政官第二百三十九號御布告ニ準據諸証書帳簿トモ全ク商法上ニ關涉ノ分ハ商用印店判等ニテ調印受授致シ候儀ト相心得可然哉右奉伺候也

證券印稅規則